

# 資 料

## 指定保育士養成施設の在学を対象とした質問紙調査

### (学生調査) 関連資料

資料1-1 質問紙調査票

資料2-2 【設問8】自由記述内容

**設問1** フェイスシート

はじめにあなた自身のことについて教えてください。( ) の当てはまる番号に○を、下線部には数字・内容を記入してください。

1. 学年 \_\_\_\_\_年生
2. 性別 ( 1. 男 2. 女 )
3. 年齢 満\_\_\_\_\_歳
4. あなたが経験した実習についてお答えください。(※「b.種別」については下記種別リストより経験した実習先に該当する種別を選んで番号入れてください。)

なお(3)、(4)は選択必修の実習のため、あなたが実施した方の実習のみ回答して下さい。

	a. 実習に行った時期	b. 種別
(1) 保育実習Ⅰ (保育所)	_____年生_____月	
(2) 保育実習Ⅰ (施設)	_____年生_____月	
(3) 保育実習Ⅱ	_____年生_____月	
(4) 保育実習Ⅲ	_____年生_____月	

## &lt;種別リスト&gt;

## 保育所種別

1. 保育所
2. 幼保連携型認定こども園
3. 小規模保育 A・B 型
4. 事業所内保育事業

## 施設種別

5. 乳児院
6. 児童養護施設
7. 母子生活支援施設
8. 児童心理治療施設 (旧: 情緒障害児短期治療施設)
9. 児童自立支援施設
10. 児童発達支援センター (保育実習Ⅲの場合は児童発達支援事業所を含む)
11. 障害児入所施設
12. 障害者入所施設
13. 障害者の通所施設 (デイサービス・作業所など)
14. 児童厚生施設 (通称: 児童館)
15. それ以外の施設

## 設問2 実習における学びについて

以下の質問は、「実習におけるあなたの学び」について聞いています。以下の表にある質問項目について、特にどの実習で身についたと思いますか。それぞれ 5～1 のうち当てはまるもの 1 つに○を付けてください。なお、文中では対象を子どもで統一していますが、保育実習Ⅰ（施設）等で経験した利用者（大人）との関わりも含めて考えて構いません。

質問項目		実習が始まる前までに身についた	保育実習Ⅰ（保育所）において身についた	保育実習Ⅰ（施設）において身についた	保育実習ⅡまたはⅢにおいて身についた	まだ身につけていない
実習態度	1. 遅刻や早退、欠勤などせず、実習できる	5	4	3	2	1
	2. 実習のねらいや目標を明確に意識できる	5	4	3	2	1
	3. 自らの実習課題を明確に意識できる	5	4	3	2	1
	4. 保育士の助言を素直に受け止め、行動できる	5	4	3	2	1
	5. 保育士に疑問などを質問できる	5	4	3	2	1
	6. 子どもの人権やプライバシーの保護の大切さを理解できる	5	4	3	2	1
	7. 言葉づかい、挨拶、服装など、保育士としての基本的な態度が身につく	5	4	3	2	1
	8. 率先して自らのやるべきこと、役割を見つけて取り組める	5	4	3	2	1
園・施設の役割・子どもの理解	9. 園・施設が担っている子どもや保護者に対する役割や機能を理解できる	5	4	3	2	1
	10. 一人ひとりの子どもをよく観察し、子どもの特徴や興味・関心を理解できる	5	4	3	2	1
	11. 園・施設が作成する保育の記録を通して、子どもの特徴や興味・関心を理解できる	5	4	3	2	1
	12. 一人ひとりの子どもの発達過程を理解できる	5	4	3	2	1
	13. 子どもの発達状態に応じた援助やかかわりができる	5	4	3	2	1
	14. 分け隔てなく子どもと接することができる	5	4	3	2	1
	15. 保育士の動きや連携の様子をよく観察し、保育士の実践の意図を理解できる	5	4	3	2	1

質問項目		実習が始まる前までに身についた	保育実習Ⅰ(保育所)において身についた	保育実習Ⅰ(施設)において身についた	保育実習ⅡまたはⅢにおいて身についた	まだに身につけていない
保育内容・環境	16. 園・施設が立てている計画の内容を理解できる	5	4	3	2	1
	17. 園・施設が行っている子どもの発達過程に応じた保育の内容を理解できる	5	4	3	2	1
	18. 子どもが主体的に遊べるようにかかわることができる	5	4	3	2	1
	19. 個と集団の関係性を理解してかかわることができる	5	4	3	2	1
保育内容・環境	20. 子どもの生活援助(食事・排泄・着脱の援助など)ができる	5	4	3	2	1
	21. 音楽や造形や運動など、基本的な保育の表現技術が身につく	5	4	3	2	1
	22. 子どもの健康や安全面に配慮したかかわりができる	5	4	3	2	1
	23. 保育士が構成している保育環境の意図を理解できる	5	4	3	2	1
	24. 園・施設が行っている保護者への支援を理解できる	5	4	3	2	1
	25. 保護者と親しみをもった態度で接することができる	5	4	3	2	1
	26. 保護者に子育てに関する情報提供やかかわりの見本を示すことができる	5	4	3	2	1
保育の計画・記録	27. 誤字・脱字などなく、丁寧な文章で実習日誌などの記録を書くことができる	5	4	3	2	1
	28. 実習日誌などの記録に基づいて実習を振り返り、自らの実践を改善できる	5	4	3	2	1
	29. 前日までの子どもの姿に応じた指導計画を立てることができる	5	4	3	2	1
	30. 発達段階や子どもの状況に応じた教材・素材を用意・作成することができる	5	4	3	2	1
	31. 指導計画をもとに子どもの状況に応じた保育の実践ができる	5	4	3	2	1
保育士役割	32. 保育士が行う仕事の目的や内容を理解できる	5	4	3	2	1
	33. 職員間の役割分担や連携の内容を理解できる	5	4	3	2	1
	34. 自己の課題を認識し、その解決に向けて学び続ける姿勢をもてる	5	4	3	2	1
	35. 保育士として適切な行動規範を子どもに示すことができる	5	4	3	2	1

※それぞれ5~1のうち当てはまるもの1つに○を付ける。

**設問3 保育実習 I (保育所)について**

あなたが保育実習 I (保育所) の事前事後指導において下記にある項目をどのくらい学べたのか、それぞれ以下の項目について、4~1のうち自分の考えに一番近いものに○を付けてください。(下記にある項目は、事前事後指導のなかで学ぶ内容です。)

**1. 保育実習 I (保育所)の実習前後の授業について**

項目内容		そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
実 習 前	1. 実習の目的について理解できた。	4	3	2	1
	2. 実習の概要 (保育所の概要) について理解できた。	4	3	2	1
	3. 実習の内容・方法について理解できた。	4	3	2	1
	4. 実習の自己課題の立て方について理解できた。	4	3	2	1
	5. 子どもの人権と最善の利益を考慮する意味について理解できた。	4	3	2	1
	6. プライバシーの保護と守秘義務について理解できた。	4	3	2	1
	7. 実習生としての心構えについて理解できた。	4	3	2	1
	8. 子どもや保育士の観察のポイントについて理解できた。	4	3	2	1
	9. 実習日誌の書き方について理解できた。	4	3	2	1
実 習 後	10. 実習目標と照らし合わせた振り返り・反省ができた。	4	3	2	1
	11. 園の評価と自己評価からの振り返り・反省ができた。	4	3	2	1
	12. 自己課題の整理や明確化することができた。	4	3	2	1

**2. 保育実習 I (保育所)の実習日誌について**

1) 以下は、「実習日誌」について、あなたの考えを聞いています。それぞれの質問について5~1のうち自分の考えに当てはまるもの1つに○を付けてください。

項目内容	非常に満足だった	満足だった	あまり満足ではなかった	満足ではなかった	指導がなかった
1. 実習日誌の記述に対して実習指導者の添削内容は、満足のいくものでしたか。	5	4	3	2	1
2. 実習日誌の記述に対する実習指導者の口頭における指導内容は、満足のいくものでしたか。	5	4	3	2	1
3. 指導担当者のコメント欄の記載内容は、満足のいくものでしたか。	5	4	3	2	1

2) その他、実習中に園と実習日誌のやり取りを行ってきた中で、気になることがあった場合は記述して下さい。

3) 実習日誌を書くにあたって、費やした時間について当てはまるもの1つに○を付けてください。

1. 1時間未満	2. 1時間～2時間未満	3. 2時間～3時間未満
4. 3時間～4時間未満	5. 4時間～5時間未満	6. 5時間～6時間未満
7. 6時間以上		

4) 下記の表にある質問項目に答えてください。

項目内容	非常に 思った	そう 思った	あまり 思わ なかつ た	思わ なかつ た
1. 実習日誌を書くことに対して負担に思いましたか。	4	3	2	1
2. 実習日誌を書く経験を通じて意識が変わったり、学びが深まったりしましたか。	4	3	2	1

5) 実習日誌を書く経験を通じて、意識が変化したり、学びが深まったと感じた内容がある場合は記述してください。

--

### 3. 実習中の訪問指導について

以下は、あなたが保育実習Ⅰ（保育所）中に受けた「訪問指導」について聞いています。それぞれの質問項目について当てはまる数字に○を付けてください。

1) 面談形態はどのようなものでしたか。当てはまるものに○を付けてください。

1. 学生と訪問指導者との二者面談	2. 訪問指導者と指導担当者との二者面談
3. 学生と訪問指導者と指導担当者の三者面談	
注1) 訪問指導者：養成校(大学・短大等)の教員 注2) 指導担当者：実習施設の実習指導者	

2) 同じ養成校から複数名で同じ実習施設へ行き、実習を行った場合のみ答えてください。面談形態はどのようなものでしたか。当てはまるほうに○をつけてください。

1. 個別で面談	2. 個別ではなく、実習生合同で面談（同じ養成校の学生だけで面談）
----------	-----------------------------------

3) 下記に表の質問項目に答えてください。

項目内容	非常 に満 足 だ つ た	満 足 だ つ た	あ ま り 満 足 で は な か つ た	満 足 で は な か つ た
1. 訪問指導の時間は、満足のいくものでしたか。	4	3	2	1
2. 訪問時の先生の指導態度は、満足のいくものでしたか。	4	3	2	1
3. 訪問時の指導・助言内容は、満足のいくものでしたか。	4	3	2	1

4) 訪問時の指導内容について、当てはまるものすべてに○を付けてください。(複数回答可)

1. 実習で意識している取り組みについて	2. 自己課題の確認
3. 日誌の記載について	4. 実習中の困ったことや悩みについて
5. 指導案(部分・責任実習)について	6. 子どもとのかかわり方について
7. 健康状態・健康管理について	8. 養成校(大学等)への意見や要望
9. その他	
9. の具体的内容：( )	

5) 訪問指導を受けて、あなたの意識が変わったり、学びが深まりましたか。

1. そう思わなかった	2. あまりそう思わなかった	3. そう思った
4. 非常にそう思った		

6) 訪問指導によって、どのように意識が変わったか、また学びが深まったか、具体的なエピソードがあれば記述してください。

#### 4. 実習施設の保育士による指導について

以下は、あなたが保育実習Ⅰ(保育所)実習中に受けた保育士からの「指導の内容」について聞いています。

1) 事前オリエンテーションにとき、あなたに対して指導を行ったのは誰ですか。当てはまるもの1つに○を付けてください。

1. 施設長	2. 副施設長	3. 主任保育士	4. 配属クラスの保育士
5. その他 ( )			

2) 実習期間中、あなたに対する指導を主として行ったのは誰ですか。(当てはまるもの1つに○を付けてください。)

1. 施設長	2. 副施設長	3. 主任保育士	4. 配属クラスの保育士
5. その他 ( )			

3) 実習施設における指導は、どのように行われましたか。当てはまるものすべてに○を付けてください。(複数回答可)

1. 保育時間中に指導を受けた	2. 休憩時間に指導を受けた
3. 午睡のときに指導を受けた	4. 反省会の時に指導を受けた
5. 実習日誌を通して指導を受けた。	
6. その他 ( )	

4) 実習施設における指導の内容について、当てはまるものすべてに○を付けてください。(複数回答可)

- |                            |                   |
|----------------------------|-------------------|
| 1. 実習の心構えやマナー（服装等含む）に関すること | 2. 保育方法に関すること     |
| 3. 子どもの発達や生活、遊びに関すること      | 4. 保育士の職務に関すること   |
| 5. 子育て支援に関すること             | 6. 実習日誌の書き方に関すること |
| 7. 指導計画の作成方法（部分実習等）に関すること  |                   |
| 8. その他（                    | ）                 |

5) 実習施設における反省会において、あなたに対して指導を行ったのは誰ですか。当てはまるものすべてに○を付けて下さい。(複数回答可)

- |         |         |                |              |
|---------|---------|----------------|--------------|
| 1. 施設長  | 2. 副施設長 | 3. 主任保育士       | 4. 配属クラスの保育士 |
| 5. その他（ | ）       | 6. 反省会は行われなかった |              |

6) 実習施設の職員から受けた指導に対するあなたの満足度について、当てはまるもの1つに○を付けてください。

- |               |                 |            |
|---------------|-----------------|------------|
| 1. とても満足した    | 2. 少し満足している     | 3. どちらでもない |
| 4. あまり満足していない | 5. まったく満足できなかった |            |

#### 設問4 保育実習 I (施設)について

あなたが保育実習 I (施設) の事前事後指導において下記にある項目をどのくらい学べたのか、それぞれ以下の項目について、4~1 のうち自分の考えに一番近いものに○を付けてください。(下記にある項目は、事前事後指導のなかで学ぶ内容です。)

##### 1. 保育実習 I (施設)の実習前後の授業について

項目内容		そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
実 習 前	1. 実習の目的について理解できた。	4	3	2	1
	2. 実習の概要（施設の概要）について理解できた。	4	3	2	1
	3. 実習の内容・方法について理解できた。	4	3	2	1
	4. 実習の自己課題の立て方について理解できた。	4	3	2	1
	5. 子どもの人権と最善の利益を考慮する意味について理解できた。	4	3	2	1
	6. プライバシーの保護と守秘義務について理解できた。	4	3	2	1
	7. 実習生としての心構えについて理解できた。	4	3	2	1
	8. 子どもや保育士の観察のポイントについて理解できた。	4	3	2	1
	9. 実習日誌の書き方について理解できた。	4	3	2	1
実 習 後	10. 実習目標と照らし合わせた振り返り・反省ができた。	4	3	2	1
	11. 施設の評価と自己評価からの振り返り・反省ができた。	4	3	2	1
	12. 自己課題の整理・明確化することができた。	4	3	2	1

## 2. 保育実習 I (施設)の実習日誌について

- 1) 以下は、「実習日誌」について、あなたの考えを聞いています。それぞれの質問について5～1のうち自分の考えに当てはまるもの1つに○を付けてください。

項目内容	非常に満足だった	満足だった	あまり満足ではなかった	満足ではなかった	指導がなかった
1. 実習日誌の記述に対して実習指導者の添削内容は、満足のいくものでしたか。	5	4	3	2	1
2. 実習日誌の記述に対する実習指導者の口頭における指導内容は、満足のいくものでしたか。	5	4	3	2	1
3. 指導担当者のコメント欄の記載内容は、満足のいくものでしたか。	5	4	3	2	1

- 2) その他、実習中に施設と実習日誌のやり取りを行ってきた中で、気になることがあった場合は記述して下さい。

- 3) 実習日誌を書くにあたって、費やした時間について当てはまるもの1つに○を付けてください。

1. 1時間未満	2. 1時間～2時間未満	3. 2時間～3時間未満
4. 3時間～4時間未満	5. 4時間～5時間未満	6. 5時間～6時間未満
7. 6時間以上		

- 4) 下記の表にある質問項目に答えてください。

項目内容	非常にそう思った	そう思った	あまりそう思わなかった	思わなかった
1. 実習日誌を書くことに対して負担に思いましたか。	4	3	2	1
2. 実習日誌を書く経験を通じて意識が変わったり、学びが深まったりしましたか。	4	3	2	1

- 5) 実習日誌を書く経験を通じて、意識が変化したり学びが深まったりしたと感じた内容がある場合は記述して下さい。

### 3. 実習中の訪問指導について

以下は、あなたが保育実習Ⅰ（施設）中に受けた「訪問指導」について聞いています。それぞれの質問項目について当てはまる数字に○を付けてください。

1) 面談形態はどのようなものでしたか。当てはまるものに○を付けてください。

1. 学生と訪問指導者との二者面談	2. 訪問指導者と指導担当者との二者面談
3. 学生と訪問指導者と指導担当者の三者面談	
注1) 訪問指導者：養成校(大学・短大等)の教員 注2) 指導担当者：実習施設の実習指導者	

2) 同じ養成校から複数名で同じ実習施設へ行き実習を行った場合のみ答えてください。面談形態はどのようなものでしたか。当てはまるほうに○をつけてください。

1. 個別で面談	2. 個別ではなく、実習生合同で面談（同じ養成校の学生だけで面談）
----------	-----------------------------------

3) 下記に表の質問項目に答えてください。

項目内容	非常に満足 だった	満足 だった	あまり満足 ではなかった	満足では なかった
1. 訪問指導の時間は、満足のいくものでしたか。	4	3	2	1
2. 訪問時の先生の指導態度は、満足のいくものでしたか。	4	3	2	1
3. 訪問時の指導・助言内容は、満足のいくものでしたか。	4	3	2	1

4) 訪問時の指導内容について、当てはまるものすべてに○を付けてください。（複数回答可）

1. 実習で意識している取り組みについて	2. 自己課題の確認
3. 日誌の記載について	4. 実習中の困ったことや悩みについて
5. 指導案（部分・責任実習）について	6. 子どもとのかかわり方について
7. 健康状態・健康管理について	8. 養成校（大学等）への意見や要望
9. その他	
9. の具体的内容：（	）

5) 訪問指導を受けて、あなたの意識が変わったり、学びが深まりましたか。

1. そう思わなかった	2. あまりそう思わなかった	3. そう思った
4. 非常にそう思った		

6) 訪問指導によって、どのように意識が変わったか、また学びが深まったか、具体的なエピソードがあれば記述してください。

--

#### 4. 実習施設の保育士による指導について

以下は、あなたが保育実習Ⅰ（施設）の実習中に受けた保育士からの「指導の内容」について聞いています。

- 1) 事前オリエンテーションにとき、あなたに対して指導を行ったのは誰ですか。当てはまるもの1つに○を付けてください。

- |          |            |          |             |
|----------|------------|----------|-------------|
| 1. 施設長   | 2. 副施設長    | 3. 主任保育士 | 4. 配属寮等の保育士 |
| 5. 児童指導員 | 6. その他 ( ) |          |             |

- 2) 実習期間中、あなたに対する指導を主として行ったのは誰ですか。（当てはまるもの1つに○を付けてください。）

- |          |            |          |             |
|----------|------------|----------|-------------|
| 1. 施設長   | 2. 副施設長    | 3. 主任保育士 | 4. 配属寮等の保育士 |
| 5. 児童指導員 | 6. その他 ( ) |          |             |

- 3) 実習施設における指導は、どのように行われましたか。当てはまるものすべてに○を付けてください。（複数回答可）

- |                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| 1. 保育時間中に指導を受けた    | 2. 休憩時間に指導を受けた  |
| 3. 午睡のときに指導を受けた    | 4. 反省会の時に指導を受けた |
| 5. 実習日誌を通して指導を受けた。 | 6. その他 ( )      |

- 4) 実習施設における指導の内容について、当てはまるものすべてに○を付けてください。（複数回答可）

- |                           |                  |
|---------------------------|------------------|
| 1. 実習の心構えやマナー（服装等含む）に関する事 | 2. 保育方法に関する事     |
| 3. 子どもの発達や生活、遊びに関する事      | 4. 保育士の職務に関する事   |
| 5. 子育て支援に関する事             | 6. 実習日誌の書き方に関する事 |
| 7. 指導計画の作成方法（部分実習等）に関する事  |                  |
| 8. その他 ( )                |                  |

- 5) 実習施設における反省会において、あなたに対して指導を行ったのは誰ですか。当てはまるものすべてに○を付けて下さい。（複数回答可）

- |             |                |          |
|-------------|----------------|----------|
| 1. 施設長      | 2. 副施設長        | 3. 主任保育士 |
| 4. 配属寮等の保育士 | 5. 児童指導員       |          |
| 6. その他 ( )  | 7. 反省会は行われなかった |          |

- 6) 実習施設の職員から受けた指導に対するあなたの満足度について、当てはまるもの1つに○を付けてください。

- |               |                 |            |
|---------------|-----------------|------------|
| 1. とても満足した    | 2. 少し満足している     | 3. どちらでもない |
| 4. あまり満足していない | 5. まったく満足できなかった |            |

**設問5 保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲについて**

あなたが保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲの事前事後指導において下記にある項目をどのくらい学べたのか、それぞれ以下の項目について、4～1のうち自分の考えに一番近いものに○を付けてください。（下記にある項目は、事前事後指導のなかで学ぶ内容です。）

**1. 保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲの実習前後の授業について**

項目内容		そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない
実習前	1. 子どもや利用者の最善の利益を考慮した具体的な保育について理解できた。	4	3	2	1
	2. 子どもの保育・利用者の援助と保護者（家庭）支援の関係について理解できた。	4	3	2	1
	3. 子どもや利用者の状態に応じた適切なかかわりについて理解できた。	4	3	2	1
	4. 保育の表現技術を活かした保育実践について理解できた。	4	3	2	1
	5. 実習以外の教科の内容を実習に結びつけて保育・支援を考えることができるようになった。	4	3	2	1
	6. 保育・支援の全体計画に基づく具体的な計画と実践について理解できた。	4	3	2	1
	7. 保育・支援の計画の立て方について（指導案作成について）理解できた。	4	3	2	1
	8. 観察、記録、自己評価に基づく保育・支援の改善について理解できた。	4	3	2	1
	9. 保育士の専門性について理解できた。	4	3	2	1
	10. 保育士の職業倫理について理解できた。	4	3	2	1
実習後	11. 自己の実習目標と照らし合わせた振り返り・反省ができた。	4	3	2	1
	12. 実習園/施設の評価と自己評価からの振り返り・反省ができた。	4	3	2	1
	13. 自己課題の整理・明確化することができた。	4	3	2	1

**2. 保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲの実習日誌について**

1) 以下は、「実習日誌」について、あなたの考えを聞いています。それぞれの質問について5～1のうち自分の考えに当てはまるもの1つに○を付けてください。

項目内容	非常に満足だった	満足だった	あまり満足ではなかった	満足ではなかった	指導がなかった
1. 実習日誌の記述に対して実指導者の添削内容は、満足のいくものでしたか。	5	4	3	2	1
2. 実習日誌の記述に対する実習指導者の口頭における指導内容は満足のいくものでしたか。	5	4	3	2	1
3. 指導担当者のコメント欄の記載内容は満足のいくものでしたか。	5	4	3	2	1

- 2) その他、実習中に施設と実習日誌のやり取りを行ってきた中で、気になることがあった場合は記述して下さい。

--

- 3) 実習日誌を書くにあたって、費やした時間について当てはまるもの1つに○を付けてください。

1. 1時間未満	2. 1時間～2時間未満	3. 2時間～3時間未満
4. 3時間～4時間未満	5. 4時間～5時間未満	6. 5時間～6時間未満
7. 6時間以上		

- 4) 下記の表にある質問項目に答えてください。

項目内容	非常に 思った	そう 思った	あまり 思わ なかつ た	思わ なかつ た
1. 実習日誌を書くことに対して負担に思いましたか。	4	3	2	1
2. 実習日誌を書く経験を通じて意識が変わったり、学びが深まったりしましたか。	4	3	2	1

- 5) 実習日誌を書く経験を通じて、意識が変化したり学びが深まったりしたと感じた内容がある場合は記述して下さい。

--

### 3. 実習中の訪問指導について

以下は、あなたが保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲ中に受けた「訪問指導」について聞いています。それぞれの質問項目について当てはまる数字に○を付けてください。

- 1) 面談形態はどのようなものでしたか。当てはまるものに○を付けてください。

1. 学生と訪問指導者との二者面談	2. 訪問指導者と指導担当者との二者面談
3. 学生と訪問指導者と指導担当者の三者面談	
<small>注1) 訪問指導者：養成校(大学・短大等)の教員 注2) 指導担当者：実習施設の実習指導者</small>	

- 2) 同じ養成校から複数名で同じ実習施設へ行き実習を行った場合のみ答えてください。面談形態はどのようなものでしたか。当てはまるほうに○をつけてください。

1. 個別で面談	2. 個別ではなく、実習生合同で面談 (同じ養成校の学生だけで面談)
----------	------------------------------------

3) 下記に表の質問項目に答えてください。

項目内容	非常に満足 だった	満足 だった	あまり満足 では なかった	満足 では な か つ た
1. 訪問指導の時間は、満足のいくものでしたか。	4	3	2	1
2. 訪問時の先生の指導態度は、満足のいくものでしたか。	4	3	2	1
3. 訪問時の指導・助言内容は、満足のいくものでしたか。	4	3	2	1

4) 訪問時の指導内容について、当てはまるものすべてに○を付けてください。(複数回答可)

1. 実習で意識している取り組みについて	2. 自己課題の確認
3. 日誌の記載について	4. 実習中の困ったことや悩みについて
5. 指導案(部分・責任実習)について	6. 子どもとのかかわり方について
7. 健康状態・健康管理について	8. 養成校(大学等)への意見や要望
9. その他	
9. の具体的内容:(	)

5) 訪問指導を受けて、あなたの意識が変わったり、学びが深まりましたか。

1. そう思わなかった	2. あまりそう思わなかった	3. そう思った
4. 非常にそう思った		

6) 訪問指導によって、どのように意識が変わったか、また学びが深まったか、具体的なエピソードがあれば記述してください。

--

#### 4. 実習施設の保育士による指導について

以下は、あなたが保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲの実習中に受けた保育士からの「指導の内容」について聞いています。

1) 事前オリエンテーションにとき、あなたに対して指導を行ったのは誰ですか。当てはまるもの1つに○を付けてください。

1. 施設長	2. 副施設長	3. 主任保育士	4. 配属クラス(配属寮等)の保育士
5. 児童指導員(保育士以外の職員)	6. その他(		)

2) 実習期間中、あなたに対する指導を主として行ったのは誰ですか。当てはまるもの1つに○を付けてください。

1. 施設長	2. 副施設長	3. 主任保育士	4. 配属クラス(配属寮等)の保育士
5. 児童指導員(保育士以外の職員)	6. その他(		)

3) 実習施設における指導は、どのように行われましたか。当てはまるものすべてに○を付けてください。  
(複数回答可)

- |                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| 1. 保育時間中に指導を受けた    | 2. 休憩時間に指導を受けた  |
| 3. 午睡のときに指導を受けた    | 4. 反省会の時に指導を受けた |
| 5. 実習日誌を通して指導を受けた。 | 6. その他 ( )      |

4) 実習施設における指導の内容について、当てはまるものすべてに○を付けてください。  
(複数回答可)

- |                           |                  |
|---------------------------|------------------|
| 1. 実習の心構えやマナー（服装等含む）に関する事 | 2. 保育方法に関する事     |
| 3. 子どもの発達や生活、遊びに関する事      | 4. 保育士の職務に関する事   |
| 5. 子育て支援に関する事             | 6. 実習日誌の書き方に関する事 |
| 7. 指導計画の作成方法（部分実習等）に関する事  |                  |
| 8. その他 ( )                |                  |

5) 実習施設における反省会において、あなたに対して指導を行ったのは誰ですか。当てはまるものすべてに○を付けてください。(複数回答可)

- |                    |                    |          |
|--------------------|--------------------|----------|
| 1. 施設長             | 2. 副施設長            | 3. 主任保育士 |
| 4. 配属クラス（配属寮等）の保育士 | 5. 児童指導員（保育士以外の職員） |          |
| 5. その他 ( )         |                    |          |
| 6. 反省会は行われなかった     |                    |          |

6) 実習施設の職員から受けた指導に対するあなたの満足度について、当てはまるもの1つに○を付けてください。

- |               |                 |            |
|---------------|-----------------|------------|
| 1. とても満足した    | 2. 少し満足している     | 3. どちらでもない |
| 4. あまり満足していない | 5. まったく満足できなかった |            |

## 設問 6 指導実習について(責任実習・部分実習等)

以下は、あなたが「計画を立案し、実践した実習（いわゆる責任実習・部分実習等）」について聞いています。

1. それぞれの実習において、計画を立案しての実践を行いましたか。(1)～(4)の各実習についてそれぞれ当てはまるもの1つに○を付けてください。

(1) 保育実習Ⅰ (保育所)	1. 計画を立案して実践は行わなかった。 3. 数時間～半日程度行った	2. 部分的に行った 4. ほぼ一日行った
(2) 保育実習Ⅰ (施設)	1. 計画を立案して実践は行わなかった。 3. 数時間～半日程度行った	2. 部分的に行った 4. ほぼ一日行った
(3) 保育実習Ⅱ (保育所)	1. 計画を立案して実践は行わなかった。 3. 数時間～半日程度行った	2. 部分的に行った 4. ほぼ一日行った
(4) 保育実習Ⅲ (施設)	1. 計画を立案して実践は行わなかった。 3. 数時間～半日程度行った	2. 部分的に行った 4. ほぼ一日行った

2. 特に印象に残っている実践は、どのような展開で行いましたか。以下より当てはまるものに○を付けてください。

1. 指導計画を立案していない	2. 思い思いの遊びや活動を援助する方法
3. 実習生が活動を提案し、関心をもった子どもまたは利用者だけが参加する方法	
4. 実習生が活動を提案し、一斉の活動として行う方法	
5. その他 ( )	

3. 上記 2. で選んだ実践は、どの実習で行ったものですか。(上記 2. において 1. を選んだ者以外回答)

1. 保育実習Ⅰ (保育所)	2. 保育実習Ⅰ (施設)
3. 保育実習Ⅱ (保育所)	4. 保育実習Ⅲ (施設)

4. 計画を立案し実践することを通して、次のことはどのくらい学べましたか。4～1のうち、もっとも当てはまるものに○を付けてください。

質問項目	十分学べた	やや学べた	あまり学べていない	ほとんど学べていない
1. 子ども(利用者)の自発的な遊びや活動、生活の尊重	4	3	2	1
2. 子ども(利用者)の理解	4	3	2	1
3. 一人一人の状態に応じた適切なかかわり	4	3	2	1
4. 子ども(利用者)への伝え方	4	3	2	1
5. 遊びや活動を豊かにするための表現技術	4	3	2	1
6. 遊びや活動を豊かにするための環境構成	4	3	2	1
7. 様々な遊具、教材等の特性の理解と活用	4	3	2	1

**設問 7 実習を通じた成長についてお答えください。**

以下は、あなたが実習を通して感じた「自身の成長」について聞いています。

以下のそれぞれの項目について、入学時の自分はどの程度あったと思うか、4～1のうちもっとも当てはまるものに○を付けてください。

質問項目	十分ある	ややある	あまりない	ほとんどない
1. 保育士として働きたいという意欲	4	3	2	1
2. 保育士としての適性	4	3	2	1
3. 人の話を聴く力	4	3	2	1
4. 人の気持ちを察する力	4	3	2	1
5. 人の気持ちに寄り添う力	4	3	2	1
6. 責任感	4	3	2	1
7. ストレスに耐える力	4	3	2	1
8. 創意工夫する力	4	3	2	1
9. 新しいことに挑戦する力	4	3	2	1
10. 自分の考えを伝える力	4	3	2	1
11. 周りを観察し、配慮する力	4	3	2	1
12. 倫理観	4	3	2	1
13. 自ら行動する力	4	3	2	1
14. 協調性	4	3	2	1
15. 自制心	4	3	2	1
16. 社会的マナー	4	3	2	1

2. 以下のそれぞれの項目について、全ての実習を終えて、今の自分はどの程度あると思うか、4～1のうちもっともあてはまるものに○を付けてください。

質問項目	十分ある	ややある	あまりない	ほとんどない
1. 保育士として働きたいという意欲	4	3	2	1
2. 保育士としての適性	4	3	2	1
3. 人の話を聴く力	4	3	2	1
4. 人の気持ちを察する力	4	3	2	1
5. 人の気持ちに寄り添う力	4	3	2	1
6. 責任感	4	3	2	1
7. ストレスに耐える力	4	3	2	1
8. 創意工夫する力	4	3	2	1
9. 新しいことに挑戦する力	4	3	2	1
10. 自分の考えを伝える力	4	3	2	1
11. 周りを観察し、配慮する力	4	3	2	1
12. 倫理観	4	3	2	1
13. 自ら行動する力	4	3	2	1
14. 協調性	4	3	2	1
15. 自制心	4	3	2	1
16. 社会的マナー	4	3	2	1

**設問8** 養成校の授業(講義・演習等)での学びの中で、特に実習で役に立ったと思われる学びについて、自由にお書きください。

アンケートは以上です。長時間にわたりご協力ありがとうございました。



【設問8】養成校の授業（講義・演習等）での学びの中で、特に実習に役に立ったと思われる学びについて、自由にお書きください。

(回答一覧)

- ・子どもの健康面に関わることや、手遊びや教材についての授業
- ・授業環境（他生徒が真面目に取り組み、私語等ない）が整っている科目は集中しやすく、頭に入りやすかった。（科目特定なし）
- ・子どもの遊びでは、手遊びやわらべうた、ゲームを行い、実習で役に立つ授業だった。
- ・日誌の書き方の説明。保育のビデオ、造形の授業
- ・指導案の書き方。
- ・他者との関わり。あいさつの仕方。自分で動くことができる行動力。
- ・子どもの手遊びは授業でたくさん学んだおかげで実習で実践することができた。
- ・実践できるもの。
- ・指導案の書き方、実習指導での実習先へのマナーや礼儀。
- ・責任実習は指導案作成から始まり大変だったがやってみてよかった
- ・敬語、正しい文章の書き方がとても役立ったと思われる。
- ・手遊び・絵本／障害児や障害について
- ・「子どもの遊び」。実際に遊びを行って学んだり、アレンジしても良いことを学んだりした。
- ・社会人のマナーなど。子どもの年齢別発達など。障害についてなど
- ・子どもの遊びでの授業の手遊び
- ・責任実習、部分実習
- ・指導案の書き方
- ・1つ1つ授業はちがう科目ですが、そのどれもが全部つながって、1つの大きな力になって私自身の保育の力になっていると、学びを通して感じました。全ての学びが、役に立ちました。
- ・指導案の書き方等
- ・実際に自分で行なわないと、何事も分からないと感じた。
- ・教材を作ったり、指導案を書く練習をしたことが役に立った。
- ・パネルシアター、エプロンシアター、絵本の読み聞かせ等の実践練習。
- ・絵本の読み聞かせやパネルシアターなどの演じ方を学んだことや子どもとの関わり方について。
- ・心理学、乳児保育で学んだ子どもの発達などを実際に見ることができた。
- ・子どもの関わり方（寄り添い共感することの大切さ）
- ・保育指導法
- ・保育指導法、歌、手遊び
- ・造形やピアノ、子どもの発達についての学び。
- ・子どもの成長課程について
- ・ピアノ

- ・パネルシアター、絵本の読み聞かせ、ピアノ
- ・工作・製作
- ・日誌の書き方
- ・ピアノ
- ・絵本の読み聞かせ。子どもとの接し方
- ・造形表現など
- ・実践を通して行う身体表現
- ・造形表現
- ・日誌、指導案の書き方
- ・実際に幼稚園の先生をしていた先生の授業
- ・造形表現…先生の講義でのポイントや子どもたちの前でどのようにやったら楽しいかを考えてやる  
ところがとても役に立った。
- ・日誌、指導案の書き方について・絵本、手あそび、パネルシアターなど
- ・責任実習、部分実習を立案し、書く授業が、実習の際とても役立ちました
- ・日誌の書き方について。
- ・子どもとの関わり、気持ちのよみとり方。
- ・手遊び
- ・日誌や指導案の書き方について。
- ・パネルシアターや絵本の読み聞かせなどの実践をしたこと。
- ・パネルシアター、読み聞かせ等児童文化財に関する講義。
- ・日誌の書き方についての授業が役に立ったと思いました。
- ・授業ではよく分からないことも、実際に実習でやってみると、難しいことや、楽しいこと、苦しい  
ことなどを知れた。理想と現実の違いを思い知れた。
- ・指導案作成
- ・実際に体験しないとわからない！
- ・全ての学びが総合的にむすびついているので実践でも役に立った。
- ・子どもとの関わり方
- ・ピアノ
- ・幼稚園実習と施設実習1
- ・分からないことを担当の先生が教えてくれたこと
- ・手遊びについてやその年齢の発達のことなど
- ・なし
- ・わかりません
- ・指導案の書き方や考え方、担任実習をするうえで、たくさんのことを学びました。
- ・教材研究・指導案、実習日誌の書き方の指導

- ・ 実際使われている手あそび。絵本のよみきかせのやり方。実習日誌の書き方
- ・ パネルシアターなどを製作する授業があり、実習で役立ちました！
- ・ 子どもとの関わり方（年齢に応じた）
- ・ なんでも挑戦して、経験することの大切さ
- ・ 子どもに共感することが大切だという学び
- ・ 指導案、日誌の書き方
- ・ 手遊び・ピアノ
- ・ 指導案、日誌の書き方、遊びのカード。
- ・ 手遊び・ピアノ・絵本の読み聞かせ・マナー
- ・ 社会的マナー。
- ・ 指導案を書く前の遊びのカード（学校で作ってくれる分かりやすいもの）
- ・ 発達心理学での子どもの発達過程についての学びが役に立ちました。
- ・ 服装や記入物・内容の指導
- ・ 主活動の制作などを学生が実際に作り指導案を立てたことです。
- ・ ピアノの授業
- ・ 制作遊び。
- ・ 特にありません。
- ・ 図画工作。
- ・ 日誌や指導案の書き方
- ・ 主活動の内容について提案し、教えてくれたこと。
- ・ 日誌の書き方
- ・ 音楽表現や造形表現など。
- ・ 遊びカード、実習の教科書
- ・ 練習（準備）の大切さ。計画が良いものだと思っても、試しに行ってみると改善点など気づきが多く見つかるから。
- ・ 遊びカードはとても役に立ちました。
- ・ 日誌の書き方
- ・ 保育所実習研究を受けて、実習前の事前準備をしっかり行うことができ、実習では、保育者にも褒められることもあった。
- ・ 日誌の書き方。
- ・ 指導案、日誌の書き方
- ・ 指導計画の立て方について。
- ・ 現場での活動で使える遊び
- ・ ピアノ。保育所実習研究。幼児教育研究
- ・ 人間関係を大切にする。・相手の話を聞くなどの授業。

- ・パネルシアターの作成。ピアノ。指導技術
- ・保育者に対しての礼儀について。
- ・実習のための事前準備の授業
- ・自分で考え、みんなの前で発表する力。また、みんなで協力し一つのものを作り上げていくこと。
- ・ピアノの授業、指導案の作成
- ・実習で見た保育士の姿、子どもとの関わりは大切だと学びました。
- ・幼児体育での幼児と関わる体を動かす遊びを学んだことで実習中に体を動かす活動をやることができた。
- ・実際に部分実習を行った時に学校での学び（遊びカード）がいかされたので良かったです。
- ・日誌の書き方
- ・ピアノ、幼児体育で子どもたちが見ながら行えるようなダンス
- ・実習についての授業では学べるが多かったです。
- ・日誌の書き方、手遊び
- ・年齢に応じた遊びの種類について
- ・指導案の書き方と創作活動
- ・手遊び、ピアノ、発達心理学
- ・保育所実習研究
- ・手遊びのレパトリーが増えるといざという時の場をもたせることができる。
- ・責任で使える遊び
- ・ピアノ。実習演習
- ・ピアノ。保育所実習
- ・実習日誌の書き方
- ・指導案の書き方について
- ・保育所実習研究、乳児保育、幼児体育、障害児保育、保育技術
- ・日誌の書き方
- ・日誌の書き方は役に立ちました。
- ・ピアノや手遊び
- ・自ら学ぼうとする意欲と積極性です。
- ・造形表現等で行った具体的な遊びの内容、展開のしかた。
- ・手あそびの授業（演習）
- ・手遊び、日誌の書き方。
- ・ピアノの授業は役に立ったが、基礎的なことをやるが多く、童謡を弾く期間はもっと増やして欲しい。
- ・日誌の書き方について。
- ・日誌の書き方

- ・ピアノ
- ・幼児体育
- ・保育所の先生方の考え方、生き方
- ・造形表現
- ・やはり、責任実習で、子どもの前に立って、自分が考えた案を進めるという経験は、将来にとっても役立つと思った。
- ・保育の心理学、乳児保育、幼児体育が実習の時にとても役に立った。
- ・保育の心理学。子どものその時の行動がどのような意味を持ち、保育者としてどの様に対応（援助や関わり）をするべきなのか、実習中にも学んだことを活かすことができたと思う。
- ・実習についての授業。
- ・幼児体育で学んだ表現遊びはとても役に立ちました。
- ・保育士の先生や現場の声を聞くというものはとても実習で役立ったと思います。
- ・指導計画、日誌を書く授業
- ・やはり、よみきかせやピアノの授業が役に立ちました。
- ・子どもは遊びの中で学ぶ。
- ・基礎的な知識（発達について）
- ・表現技術の時間。（手遊びや実際に作る）
- ・特になし
- ・手遊び学ぶ授業
- ・子どもの年齢に合わせた対応の仕方。手遊び。
- ・保育の表現技術A・B・Cで実践的な内容について学べた。発達心理学を学んだことで子どもの発達を理解した上で実習に臨めた。
- ・音楽のピアノの授業や子どものオムツを換える練習をする授業など。
- ・指導案の書き方を学ぶために、実際に指導案を書き、添削を先生がしてくださり、基本的な書き方を実習前に身につけることができました。
- ・日誌や責任実習などの書き方についての授業は、日誌などを書く際に役に立ったと思う。
- ・障害児支援
- ・実習指導の授業で実際に指導案を書いておくと、自分の自信につながると思った。たくさん持ちネタを増やすことが授業内にできたのでとても役立った。
- ・実践的な事前指導は、一番不安な責任・部分実習でとても助かったのが良かった。
- ・保育課程の編成
- ・指導案の書き方、心がまえ、準備するもの、保育者としての意識等多すぎて書ききれません。
- ・模擬授業、指導案・日誌の書き方
- ・壁面製作やエプロンシアターの作成。
- ・ピアノの実践演習

- ・手遊び。
- ・子ども理解の方法
- ・「見守る」という支援があること
- ・乳児保育における保育環境（静・動の環境）について
- ・相手の気持ちを考える。
- ・造形と表現、身体と表現、保育内容健康、保育内容表現。
- ・実習前指導で遊びの指導案を書いたこと。自分の指導案を反省するだけでなく、他の学生の指導案を見ることができ、勉強になった。
- ・障害児保育について
- ・子どもたちのことだけではなく、保護者に対する支援、そして、子どもの変わった動きには、何らかの理由があるということ。事実など表面的に見るのではなく、子ども一人ひとり理解するためには、背景をも見ることが大切ということ。
- ・指導案作成、実習日誌の書き方。パネルシアター・エプロンシアターの作成
- ・日誌の書き方、指導案の立て方、発達過程など
- ・指導案の書き方、実際にその内容をするという授業。
- ・模擬保育の授業はとても役に立った。実際にやることはとても大切だと思った。又、他人の意見やアイディアも知ることができるので良かった。
- ・指導案を作り、模範授業を行うことで、子どもたちの姿をイメージし、自分の立てた指導計画について見直すことができた。
- ・全然役に立たなかった
- ・音楽と体育
- ・日誌の書き方。保育所・施設それぞれでの子どもの姿や職員の関わり方など
- ・模擬保育を全体の前で行ったことが非常に役に立ったと思いました。
- ・指導案の作成に関することや、実践として遊びを大学生を子どもだと思い展開する学び。
- ・発達心理学
- ・手遊びなど
- ・実習前の事例などを含めた話や、計画立て
- ・日誌の書き方にかかわる授業。社会的養護（内容）。保育内容指導法演習（言葉）
- ・実習へ向けてビデオを見て、日誌や、指導案を書いたことは実習でとても役に立った。
- ・実習行くまでの心構えをつくってくれた先生に感謝です。
- ・〇〇先生の授業（今まで行った科目全て。）
- ・子どもの気持ちを汲み取ること。・子ども以外の同僚性を大切にして相手を思いやること
- ・全てです。本当に授業全てが役立ったと感じています。現場での経験が豊富な先生方が多かったからだと思います。この4年間に私にとって大変大きなものでした。レベルは低いけれど、ここで良かったと心から思っています。

- ・ 日誌、指導計画の書き方を丁寧に行ってくれたので書く力が身につきました。
- ・ 子どもの心理や発達について学び、それが役だった。
- ・ 指導案を書く練習をする授業が特に役に立ちました。
- ・ 活動の計画の立て方や展開について
- ・ 色んな授業、どれも学びのある授業だと思います。でもやはり実習という体験が一番大切。
- ・ 子ども達1人ひとりの発達・成長を考えて、接することの大切さを学んだことが役に立ったと思います。
- ・ ピアノの能力別授業、事前・事後指導、ムーブメント、リトミック、絵本と児童文学。  
実際に1日担任を行うことが、一番実践につながって勉強になりました。座学では学べないことが多く分かりました。
- ・ 実習関連の授業・ピアノ
- ・ 遅刻は心配される。
- ・ 日誌、指導案の書き方
- ・ おむつ替えなどの実践的な演習
- ・ 模擬授業や、指導案作りを行ったこと
- ・ 実習前の事例検討
- ・ 自分のことよりも相手を大切にすること。常に周りの人を大切にして努力を惜しまないこと。
- ・ 指導案の書き方
- ・ 発達段階別での子どもへのかかわり方。
- ・ 実際に子どもと関わることができた授業
- ・ 子ども理解とそれに伴った保育の組み立て方について。
- ・ 考えに納得しなくても、間違っていたり不正なことをしても上についていかなければならない。社会の厳しさ、冷たさを知った。
- ・ 責任実習（保育実習2）・施設実習
- ・ 模擬授業や実習後のふり返り
- ・ 質の高い学びを得るための実習への心意気。
- ・ オムツの変え方
- ・ 小学校実習！女の世界だけはダメ！
- ・ 模擬保育などの実践的な授業。事例研究、子どもの発達など。
- ・ 模擬授業
- ・ 子どもの発達についての学び、実際に遊びや活動を考えて発表する授業
- ・ 2年次におけるグループ実習（学外）
- ・ 障害児に関すること、保健
- ・ 乳児保育1、2の、乳児の安全管理について等。
- ・ 子どもの保健3

- ・全ての授業
- ・子どもと関わる時の保育士の態度・姿勢意図
- ・日々の授業内容。
- ・実習生としてどうあるべきか、子どもの行動の意図など。
- ・実践的なもの。先生の経験してきた話。
- ・遊びの発達や年齢ごとにおける発達について
- ・表現技術の授業の中で手遊びを学べたことは、とても役に立ちました。
- ・積極性
- ・ない
- ・乳児保育→子どもの発達について学べたから。幼稚園実習→子どもと関わり色々な声かけの方法を学べたから。
- ・子育て支援の演習
- ・乳児保育、社会的養護など、子ども理解のための学び全部が役に立っている
- ・特支の実習での講義（自立活動）が学びにつながった。
- ・子どもの発達について。・保育士としての関わり方
- ・保育を専攻し、学んできたこと自体が今思うと役に立ったのではないかと思います。ほとんど幼児教育について理解がなかったのですが、その重要性を学ぶことが出来ました。
- ・2年生の時のグループ実習で、子どもとのかかわり方、人と協力することの楽しさなどを学ぶことができ、その後の実習でも役立った。
- ・グループ実習
- ・乳児保育
- ・造形や手あそび、絵本の実技など
- ・造形
- ・こどもの発達について
- ・ピアノの技術。子どもとの関わり方について。子どもの発達について
- ・造形の授業
- ・日誌の書き方。絵本の読み方
- ・特になし
- ・ピアノの実技などの直接現場で行えるもの。事例を通しての授業展開では現場に出た際のイメージが湧いて良かった。
- ・ビデオを見て、エピソード記録のようなものを実際に書いてみることに。
- ・指導案・日誌の書き方
- ・造形・ピアノは役に立ちました。
- ・グループで話し合ったことは、様々な意見が聞けるので、勉強になりました。
- ・絵本や手遊びの実践的なやり方。

- ・授業内で自分が考えた、又は調べてきた遊びを皆に紹介するものは、自分も友達も遊びのレポーターが増えたのでとても良いと思った。
- ・研修を意識した講義
- ・実習で使用できる遊びや絵本のよみ方の指導。
- ・実技系の授業で知識を身につけ、講義で活動の根幹を成す考え方を形成していくという役割があったのではないかと思います。
- ・造形や音楽、子どもの感染症など。←実践的なもの
- ・実践の授業（音楽・造形）
- ・周りの人との意見交換やディスカッションは刺激にもなり学びが深まりました。
- ・「環境構成」や「環境」は学びになった。大人にとっては何でもないような缶のフタや、雑草が、子どもにとってはピカピカの音のする楽しいおもちゃであったり、見事に咲いたきれいな花であったりする。
- ・実習前指導（日誌の書き方、絵本の読み練習、手遊びなどをやったので）
- ・子どもの保健は基礎的なところから学べたので良かった。
- ・実習の事前指導・事後指導は大変役に立った。
- ・音楽
- ・日誌やお礼状の書き方等、実習においての一連の決まり事。
- ・指導案の書き方。実習マナー
- ・養護技術（オムツ交換など）
- ・ピアノの授業。（今まで知らなかった曲も園では歌っていた）
- ・絵本の読みかかせの実践。手あそび
- ・手遊びや絵本の読み聞かせ、責任、部分実習の日誌における実践的な指導。
- ・造形や音楽、体育など実践する授業や、日誌の書き方の授業。指導案を作り、発表する授業はとても役に立ちました。グループワークでディスカッションする授業のやり方はとてもよかった。
- ・子どもの発達過程（段階）は、話として、聞いて、実習で実際に一人ひとりの差などを改めて感じることができて、より強く、自分の中に知識として入ったと思う。また、表現（芸術？）などの授業は、責任実習のストックになった。その授業で行ったことをヒントに持ちごまを増やしていくと、実習で、試すことができる。
- ・特にない
- ・おもちゃを作る等の実践的な授業が実習で役に立ちました。（手遊びなど）
- ・ペーパーサートやエプロンシアター等を作って模擬保育をした上で、実習期間中の部分実習と全体実習等、失敗してでも自分が経験したことにより単にみている時や聞いている時よりもはるかに役に立った。
- ・指導案や日誌の書き方について
- ・保育指導法・保育内容（環境）などの模擬保育

- ・こども1人ひとりの状況を見極められるよう、年齢や発達に合わせた遊びや援助を学べたこと。
  - ・〇〇先生の講義は最高
  - ・すべての授業が大切だったけど、一番は心理等だと思った。
  - ・全てが学びです。
  - ・保育で使える玩具やペープサートや裁縫を学べた事。
  - ・子どもの前で状況に応じて保育技術を見せること
  - ・手遊び・日誌の書き方・指導案の書き方
  - ・日誌の書き方、保育技術のレパトリー
  - ・現場では一分一秒でも過ごした時は戻らないとお話いただいたこと
  - ・障害者の方との関わり
  - ・とくになし
  - ・絵本の読み聞かせや、手遊びなどの実践的な技術
  - ・ピアノ
  - ・部分実習で使えるものの製作（ペープサート、紙芝居 e t c）・手遊び
- ピアノ（特にコード伴奏方法）
- ピアノ
- ない
- ・特にありません
  - ・折り紙や、手遊びの授業は実習で役に立ちました。
  - ・スケッチブックに描いた『とんでったバナナ』の歌
  - ・ピアノ、日誌の書き方
  - ・日誌、ピアノ、子どもへの関わり方
  - ・手遊びや絵本の読み方。
  - ・ピアノの授業。日誌の書き方
  - ・ピアノ
  - ・ピアノの弾き歌いのやり方・絵本や紙芝居の読み方
  - ・絵本の読み方や話し方
  - ・表現の授業が役に立った。
  - ・日誌の書き方
  - ・子どもとのかかわり方、トラブル対応
  - ・手あそび、ピアノ、弾きうたい、折り紙などの勉強
  - ・手あそび、おり紙を習ったとき
  - ・ピアノの授業が役に立ちました。
  - ・実習前や就職についての授業
  - ・日誌の書き方

- ・一人一人の個性を大事にすること！
- ・実習日誌の書き方・子どもとのかかわり
- ・手作りの紙芝いを作ったり実習で役に立つことを作った表現の授業
- ・手遊び、パネルシアター
- ・実践的なこと
- ・子どもの最善の利益
- ・子どもの最善の利益
- ・子ども達一人一人への接し方
- ・手遊び・ピアノ・日誌、指導案の書き方
- ・クラスの友だちの前で絵本を読み聞かせすること。
- ・実際に保育現場に立ったことのある先生の実践的な授業（手遊び、絵本、パネルシアター）ピアノの授業、家庭や保護者とのかかわり方、成功の法則
- ・つらい困難があっても耐える力が主に身に付きました。
- ・ピアノ、日誌の書き方、先生方との接し方
- ・先生や先輩の現場での話を聞く。
- ・年齢ごとの発達段階、適した接し方や遊び
- ・ピアノ



## 保育実習の標準的な実施方法の検討

### (標準的な実施方法調査) 関連資料

資料2-1 保育所実習グループインタビュー発話内容

資料2-2 施設実習グループインタビュー発話内容

質問項目	グループ A	グループ B
事前指導のポイント	<p>保①：開設してから3年目の保育園。それまではI市のC保育園にいて、年間を通して多くの実習生の方を受け入れていた。今は3年目の保育園で、実習生の数からするとそこまで多くはないが、年間で今のところは正直なところ5~6人ぐらいである。そういった方々にまずお伝えする上での、<sup>(64)</sup>私たちが保育のコンセプトとか、<sup>(65)</sup>保育理念というところをしっかりと伝えたいと思う。子どもを一人の人として尊重していきたいというのが、私たちの保育の思いとしてあるが、そう考えたときに、<sup>(66)</sup>実習生の立場からすると、緊張したりとか、お邪魔をしますみたいな、そのような緊張感を持ってこられると思うが、私たちの立場からすれば、私たちも子どもたちと対等な関係を築いているし、最近では地域とか、社会の方々とも子どもたちをたくさん出会わせてあげたいと思っているということ。その中で実習生に来ていただいたときに、<sup>(68)</sup>同じ人として私たちは子どもたちとも、また実習生さんとも関わっていきたく思います、ということを一番最初に申し上げるといふふうにしていく。</p> <p>保②：実習生が来ていただいたときには、<sup>(67)</sup>園の方針だとか、<sup>(68)</sup>学生さん自身はどういった実習に臨みたいとか、というところを聞くように形を取っている。それを元にどんな実習にしたいかというのを計画してオリエンテーションのときに取り込んで、<sup>(69)</sup>計画表を作成するという形をやっている。園の方針とかいうのも、なかなか実習生の方が来られて把握するまでには時間がかかるので、その都度対応するという意味で、担当する指導者というか、私は認定書の担当をしていて、全体のはんこを押しているが、その他に<sup>(69)</sup>実習に当たる担当者を指導に付けて、<u>園の方針だったり、そういうところを指導に入れていくという形を取っている。</u><sup>(67)</sup>学生さんから申し出たこととはなるべく取り入れられるような方向性では考えている。</p> <p>養①：私どもは1学年140名ぐらいが保育所実習をし、保育所実習Ⅱでは人数が80名から90名にはなっていて、あとの残りは施設に実習に行くので、その人数で実習指導をしている。<sup>(70)</sup>事前に関しては、<u>実習の目的を理解することをポイントにしている。</u>それから<sup>(71)</sup>基礎知識の確認、<u>そういったことをワークを取り入れながら、基礎知識の確認をしている。</u>それと、事前でもう一つは、<sup>(72)</sup>実習する上での実践的な方法、それを映像とかグループワークで、講義ではなくて身に付けるような、そういう授業方法を取りながら、できるだけイメージしやすいというか、まだ行っていないところに行くので、それから<sup>(73)</sup>人間関係の問題もあるので、<u>そういったことにメンタル面で弱い学生も中にはいるので、できるだけ不安感を取って、積極的な実習になるようにというところで、実践的な演習を取り入れてやっている。</u></p>	<p>養③：学生数約30名。<sup>(13)</sup>15コマの事前指導が行われている。事前指導の内容では、<sup>(14)</sup>実習記録の取り方、<sup>(15)</sup>指導案の作成、<sup>(16)</sup>事務的な書類の作成、<sup>(17)</sup>現職の保育者(卒業生)保育者の講話等、一通りまんべんなく行っている。<sup>(18)</sup>15コマでは、<u>時間が足りないと感じている。</u>少数ではあるが、<sup>(19)</sup>挨拶ができない、<sup>(20)</sup>言葉遣いが悪いなどといった指摘を保育現場から受けるが、事前指導の授業だけではどうにもならないように感じている。<sup>(21)</sup>15コマの授業だけで行うことはそもそも難しい。</p> <p>とくに力を入れて指導していることは、実習Ⅰでは記録で苦労している学生が多いので、<sup>(22)</sup>記録を取るポイントや、<sup>(23)</sup>保育者の意図をしっかりとらえて記録することなど、実習記録についてである。</p> <p>養④：必須なこととしては、<sup>(24)</sup>どうしても事務的なことが入ってくる。工夫ある取り組みとしては、たとえば<sup>(25)</sup>記録の書き方や計画は、<u>実習指導の中ではやらずに、保育課程論の授業の中で、実習指導を見据えて行っており、実習指導の授業だけではなく他教科と大半を連携してやっている。</u><sup>(26)</sup>実習指導の授業も15コマではなく、18コマでやっている。</p> <p>1学年250名いて、<sup>(27)</sup>実習指導は12クラス作って少人数でやっている。特色として、単科の短大なので、<sup>(28)</sup>保育所実習も施設実習も幼稚園実習も、同一の教員がグループアドバイザーとして配置する仕組みを確立している。挨拶等の指導については、授業内ではできないので、文化的に学内で挨拶をする雰囲気をつくってやっている。</p> <p>子どもとの関わり不足の学生が多くなっていくことから、初めての実習(1年の1月の時期保育所実習)前の<sup>(29)</sup>夏休みなどにボランティアが出来るようにしている。某協会某支部と提携してボランティアをできる仕組み(4年前位から)を作って、<u>評価のしないところで保育を楽しむ経験ができるようにしている。</u><sup>(30)</sup>子どもとかかわることや一日の保育の流れを知ることなど、<u>積極的に学べるようにして</u>から、スムーズに実習が行えるようになった。また、<sup>(31)</sup>大学独自でも、地域の保育園や幼稚園、児童福祉施設と連携し同じような仕組みを作って大学主導でボランティアが行えるようにしている。</p> <p>保③：事前にいろいろ勉強してきていることも感じているので、事前に話をすると、<u>どんな実習をしたいか</u>ということを学生に聞くようにしている。記録の部分では、<u>どんなふう</u>に<sup>(32)</sup>どんな記録をとっていいかということを悩んでいるまま現場に来ているような感じがあるので、<sup>(33)</sup>エピソードがいいか、<sup>(34)</sup>時系列がいいか、<sup>(35)</sup>学生によって捉え方が違うので、<u>相談しながら進めているが、<sup>(36)</sup>どんな実習日誌にしたいか</u>ということを学校の中で決めてきてもらえるとありがたいと感じている。</p>

(ワークの具体的なものとしては?)

養①: 例えば基礎知識の確認という場合は、ワークシートを使って、講義ではなくて、自分で実習をして、確認をして、どこまで自分が理解しているかという、そういうプリントを渡して家でやってくる。そして最終的に分からないところがないようにした上で、実習日誌のほうに記録をするということをやっている。

養②: 本学は2年制の短大で、学生は1学年60人です。比較的小さい所。短大、専門学校もそうだと思うが、基礎学力がすごく落ちてきている。基本的な課題、実習以外のところにいるとしないといけないことがある。<sup>(11)</sup> 実習の前身に入る前のところとして、基本的な態度、社会人としてのマナーというか、その辺もよく指摘されるので、それだけでできればいいとは思っていないが、それでもできないと実習にならないということをよく痛感している。最低限ある程度文章を書けることと、<sup>(12)</sup> あいさつとか、<sup>(13)</sup> 社会人としてのマナーというようなものを、実習指導じゃない形でという前提としてやりつつ、あとは基本的な実習の指導というふうにやっている。

基本的にそういった学力面だけではなくて、子どもが好きと言いながら、意外と子どもと関われない学生たちが増えているので、何らかの議論が学校で追求されているとは思っている。<sup>(14)</sup> 実習に行く前にできるだけたくさんの子どもたちと関わるような機会を用意しようということ、工夫はしている。本学で、短大附属の幼稚園と保育園、両方あるので、そちらのほうで<sup>(15)</sup>見学実習やあとは<sup>(16)</sup> ボランティアとしての実習を2日ずつ、トータル4日間、やるということと、<sup>(17)</sup> 学園で子育て家庭支援センターをやっているので、こちらもあるので、そういう場所も使って学生に比較させて、幼稚園に入る前の子どもたちが多いが、年に1年生1回、2年生1回だけしかないが、少し実践的なところをやるようにはしている。

養①: 事前のところであつと補足があるが。子ども学というメインの科目があつて、実習に行かない1年生のときに、保育園、幼稚園、認定子ども園に<sup>(18)</sup> 記録も取らないでいい、ただ子どもと関わって楽しく過ごしてきましよう、みたいなものを取り入れている。だから、実習のときには本当に緊張して、楽しくというところがなかなか飲み込めないかと思うが、1年生の子ども学の授業での見学はともリラックスして楽しんでくるよう、そういう企画も事前の中には入っているかなというふうには思っている。

保①: 私たち現場の立場からすると、実習生を受け入れるというところで大きな目的として、<sup>(19)</sup> やはり保育の楽しさを感じてもらいたいというのが1番。保育の道を選んで、そういった学校に行つて、そこから違う道を選ぶ学生も多いのかと思うが、職場の中で共有しているのがまず楽しんで帰つても

保④: そうすると、今度は<sup>(20)</sup> 記録を書くことに夢中になってしまう学生もいて、ものすごく細かく記録していて、これはすごいねというくらいに細かい記録の学生がいる。一方で、ざっくり書いてくる学生さんもいて二つにわかれている状況もある。<sup>(21)</sup> 細かくかいてくる学生には、そんなに記録に頑張らなくていいのにと。実習1のときなんかは、もともと子どもとも触れ合つてほしいなというのは感じている。人目を気にしながら実習している学生が多いように感じている。「やりたいようにやっでござらん」と指導している。そこから始まると思っている。

事前指導  
のポイント

	<p>らう、<sup>(74)</sup>保育の道に進んでもらう、ということ<b>を第一として考えている</b>。もう一つが<sup>(74)</sup>やはり<b>保育士自身の学びにしてみたい</b>ということ<b>を、管理側の立場になって、強く思っている</b>ところ。それは、今、保育園も増えていく中で、保育の質をどういうふうにも上げるのか、それが大きな課題と私自身感じていて、私の園でもやはり若スタッフ、そういう指導をすることに慣れていない保育士も多くも増えてきていると思うので、やはり学生さんに来てもらって、そこに伝えていくプロセスが大きな課題になると思っています。</p> <p><sup>(75)</sup><b>先ほどの文章が書けないとか、社会人としての態度というところは、やはり現場に来てからも伝えていくところの、その後の現場での学びにも期待してもらいたい</b>か、その中で保育の道を諦めないような指導をしていただければと思う。</p> <p>保②：先ほどの話にあったように、子どもと関わる機会を学生のうちにたくさん取ってもらえるといいと思っている。割と学生さんは忙しくて、なかなか保育のアルバイトだったり、関わるのが今、少なくなっているという話も聞く機会もあって、そのような機会があるといいかなと思っている。子育て支援とか、そういうところの関わりも学生さんのうちにたくさんしてきてもらえればいいかなというふうに感じている。</p> <p>今、子育て支援というか、子育てルームみたいなものが始まって、その中で保護者がいる、<sup>(76)</sup><b>子どもがいる中でどうやったり保護者と関わるかとか、そういうのがもう少しラックスした状態で経験ができた</b>りするので、<b>そういう雰囲気の中に入れてもいいかな</b>と思っている。あとは、やはり目的をしっかりと持ってきていただけだと、そのときの目的ではなくともいいとは思いますが、<sup>(69)</sup><b>自分がこの実習でこんなことをしたい</b>という、<b>少しでもいいので、その思いをオリエンテーションのときでも話してくれれば、こちらでも少し広げていける</b>かなというふうに感じている。</p>	
	<p>養①：オリエンテーションの仕方はマニュアルがあつて、丁寧にどのようなオリエンテーションしてくるかとか、<sup>(68)</sup><b>電話のかけ方からレクチャーをしていく</b>。今の学生たちの電話の対応とかにやや不安もあるもので、マニュアルにしっかりと、<sup>(69)</sup><b>どういうふうにも敬語を使う</b>とか。本当に恥ずかしいが、そういうことも含めてマニュアル化している。それから、保育園の事情、幼稚園の事情を話して、その時間帯を。自分の都合のいい時間帯を先に言うのではなくて、先方の都合のいい時間にオリエンテーションを受けようというふうなことも配慮するようにと<b>いうふう</b>に学生には伝えている。</p> <p>それから、実際にオリエンテーションを受けに行つたときには、まず、やはり保育課程とか、その園の保育目標、保育方針、それから保育課程、それから保育指導計画を、もしその時点で見せていただければ、見せて</p>	<p>養④オリエンテーションで何を見ているか、聞いてくるかということとは明確に示している。<sup>(65)</sup>記録用紙の中に<b>実習の概要（沿革、理念、環境、クラス編成）を書く欄があつて、これら</b>のことを聞いてくるように指導している。これらのことは、事前に聞いておかないと、学生は実習中にそのことを聞いてくる余裕や身のこなしができない状況にある。<sup>(66)</sup>実習に入るにあたっての<b>身だしなみ</b>、<sup>(67)</sup><b>持ち物なども聞いてくるよう指導している</b>。</p> <p>その他、<sup>(68)</sup><b>自分がどう実習したいのか、何を学びたいのかを（自己課題）をしっかりと伝えることを指導している</b>。</p> <p>また、実習連絡会でオリエンテーションに何をすればよいかと質問があつたので、実習実施要綱を作って園に渡している。</p> <p>養③：オリエンテーションでおうかがいがいする前に、<b>基本的な確認事項（服装、</b></p>

いただくということと、親御さん向けのパンフレット、入園の案内、そういうものもいただいたりするので、その園の概要が非常につかみやすいので、お話を聞いていただくよりメモを取ること、そういう資料を差し支えない範囲で見せていただくように学生に伝えている。それからそういうパンフレットをいただいたらば、それを持って帰ってきて、自分でもう一度復習できるので、そのことも伝えている。

それから、<sup>(60)</sup>実習計画というのには特に立てさせてはいたくないが、どういう入り方をしたいか、実習をどういうふうに受けたいかということ、どういう方法があるかということを授業の中で説明して、園と相談なさいと。それで、園の事情で自分が幼児クラスに入りたい、あるいは乳児クラスに入りたいとしても、入れない場合もあるので、自分の希望を言ってもいいけれども、あくまでも園の事情を聞いてから、最終的に話し合っ、実習方法を決めるよ

うにという話をしている。

それから、実際にいく場合の学生個々の目的などは、実習日誌のほうに書かせるが、そのときに自分の実習への意欲、抱負というふうなもの、それから実習課題を明確にするということを授業の中でやっている。その課題については、一応子ども理解とか、保育所理解とか、園理解といったような形で、大枠決めているが、その中で具体的に子どものどのところ、どのういう場面の、どのういう内容を実習してきたいのかという具体的なものを自分で考えなさいというふうに言っている。

大学の先生方が過去に作られた教科書があるので、それに全て書いてあるという状況があって、それを学生は見ながら、具体的な課題を立てていくことになる。実際には自分ができそうな教じやなくて、たくさん課題を書いてくる学生もいるし、抽象的な内容で課題を書いてくる学生もいるので、結果的にはそれを指導する形になり、個々に実習指導をすることになる。その実習指導の方法が、うちは保育士養成を長年やってきた関係で、全教員がその日誌を通して実習指導をするという体制を取っている。

<sup>(41)</sup>教員用マニュアル、それから新しく勤務された教員にもこういう実習指導をしてくださいということ、その流れと指導の内容をきちんと理解した上で、教養の先生から全ての先生が学生を受け持つ形でやっている。いわゆるゼミと同じような考え方で、1人10人前後、全教員が担当して、実習課題のようなものに、これは大丈夫なのかとか、こういう課題は持ったのかとか、個々に指導してもらい、最後にその教員の講評みたいなものをもとらって、実習に出ていくことになる。

養②：基本的には（今）お話しいただいたのと同じようなところ。本学もマニュアルがある、計画から訪問の仕方まで。ただ、一番は実習で日誌の最初のページで内容を書くページがあるので、そこを書けるようになってきてほしい。パンフレットをもったり。それがなかなかできないので、最近では記入用紙を作って、これに書いてきなさいと。その配属クラスはどこですかと、

持ち物)を指導している。また、<sup>(40)</sup>実習の目標を書かせて、持参してオリエンテーションに臨むようにしている。<sup>(46)</sup>個別に配属が必要な学生、たとえば食物アレルギー、服薬などが在る場合は自分で伝えるよう指導している。

保④：<sup>(60)</sup>オリエンテーションでは、緊張が強いので、言いたいことの半分くらいは言えていないような状況がある。<sup>(64)</sup>どういう実習がしたいかを紙に書いて、言葉にしては、責任<sup>(66)</sup>実習をどうやうりたいかを聞くと、「保育園にお任せしているので決めて下さい」というような学生がいる。「紙芝居やる？」などと聞いても「先生決めてください」という感じの方がいる。ほんとうにわからないのかなという感じである。もう少し具体的にどうしたいかということを決めからオリエンテーションに臨んでいただけるとよい。<sup>(65)</sup>学生が主体的に実習することを大事にしたい。意欲的な学生は、オリエンテーションの時に、「これをやりたいんです」と製作物をもってきたり、「こういう絵本を読んでもいいですか」という学生もいる。二極化している。

オリエンテーションに来たら、<sup>(47)</sup>まず園内を見てもらうようにしている。子ども達が実習生に慣れているので、実習生がくると遊んでもらえるという感じで、実習生がきたらよってたかかってという状況で。見学が終わるとちょっと緊張がとれて笑顔が出たり、自信がついたりしているような感じがある。

<sup>(66)</sup>配属クラスは、実習1では成長・発達の実際を見てもらうため、0歳児クラスから5歳児クラスまで順番に入れるように。<sup>(62)</sup>実習IIでは、どこに入りたいか、希望を聞くようにしている。

保③：オリエンテーションについては、公立なのである程度の決まりがあるので、それは踏まえた上で、<sup>(69)</sup>まずは緊張をほぐしたいので<sup>(47)</sup>園の中をみてもらったり、園庭を見てもらったりしながら<sup>(46)</sup>園の概要を伝える。

<sup>(66)</sup>守秘義務については書面で渡して説明し、オリエンテーションで説明を受けたこととこのことの記録を書面に残してもらうようにしている。

<sup>(64)</sup>どんな実習をしたいかということ聞く。実習IIの場合は、まだ計画はできていない学生も多いので、「<sup>(69)</sup>学校の中で習ったもの、<sup>(60)</sup>作ったものを実習でどうぞやってみて、使ってみて下さい」と言っている。また、できたらやってみて、使ってみて、使ってみて、学校の先生に是非、報告をしてくださいといっている。

オリエン  
テーショ  
ン

用意するもの何ですか、実習までに用意しなくちゃいけないものは何だ、練習しなくちゃいけないものはないかとか、全部書かせてこれを一通り聞いてくれば大丈夫だというものを事前に渡して、抜けているものもあるが、それで、実習の抱負を書いて、<sup>(64)</sup>実習巡回担当の教員で個別指導して実習に出している。基本的に同じような感じである。

オリエン  
テーション

保①：まず、私たちのオリエンテーションのところでは、やはり学生さんにチェックリストで、伝えるべき視点ということは、漏れないように、抑えるべきことというところを十分確認はしている。その中で、保育の目標だったり、発達について知らせたり、あとは持ち物があったり、<sup>(65)</sup>保育園の概要を伝えたり。あと、伝えなきゃいけないと最近思っているのが、倫理的な部分。それが、先ほどから話の中で、人としての部分、社会人としての部分というところの話があったが、これは職員に対しても同じで、<sup>(67)</sup>個人情報や関わりでも世の中で<sup>(68)</sup>虐待がシビアになっていく中で、保育士のそういった視点もシビアになってきている時代だと思っているので、そういうところについても、しっかりと伝えていかなければいけないのを感じている。

実習の配属希望というところは、先ほど相談というところがあったが、やはりまず希望を出していただけというものは、こちらとしてもありがたいと思う。本園としても<sup>(74)</sup>実習生さんの受け入れがどのようにスタップの学びにつながるかという視点も大きな視点なので、そこも考えながらの配属になる。  
実習ノートの書き方とかも、私自身がそんなに細かく書くタイプではなかった。

<sup>(64)</sup>実習ノートを何で取るのかということと、私たちの園での考えとして伝えている。学生さんによってはページを継ぎ足して、何時間という方もいるが、大事なのはそれで全てまとめるというよりは、<sup>(66)</sup>保育のねらいから計画を立てていくとか、私たちが日々やっている仕事を疑似体験というか、そういうところもねらいとしてあるのかと思う。全て書くというよりは、書き方の指導というところは最初に伝えておいてあげないと、後から改善していくのは難しいのかなと思っている。もちろん、養成校側の指導もあると思うので、そこは学生さんから話を伺いながらである。

保②：オリエンテーションのときには、園での<sup>(69)</sup>守秘義務や出勤時間など、用紙にまとまっているもので説明をしている。その中で不明な点を学生に確認の了解を取るような形を取って進めている。実習計画のほうは、<sup>(62)</sup>本人がどこか年齢をやりたいかというのを、その場で考える学生もいれば、いろいろ。その辺は学生の希望をなるべく取り入れたいというのがうちの園の考えでもある。方向性としては、学生の行きたい配属の場所という形で設定している。一応2週間とかという<sup>(63)</sup>期間内の計画表のお知らせをして、学生にこの日はこれをするという形を示しておいて、不明な点があったら、もう一度

	<p>来てもらったりはしているのですが、そのときに確認をして、実習に挑んでもらうというのを、オリエンテーションのときに基本的に話している。  <u>保育課程を提示することについては、<sup>(48)</sup>保育課程とかその辺は提示はして</u>  <u>いないが、必要性があるのかなと思う。</u></p>	
<p>実習期間        中の経験        内容</p>	<p>保②：なるべく子どもの名前を覚えて呼んであげて、どうしても来る子に対しては関わりが多くなるが、なかなか<sup>(120)</sup>近寄ってこない子どもたちにも声を掛けつつ関わり関わるように、<u>経験をしようということを学生に話している</u>。あとは、<sup>(121)</sup>遊び方とか関わり方が分からないということもある。その<u>辺は保育をしなごう</u>ということである。今、これだからこうやって考えてごらんという形に関わらせると、<sup>(122)</sup>毎日絵本とか紙芝居とか読む機会を作って子どもと接する機会を提供している。そういうことを実習中は作るようにしている。  <sup>(123)</sup>学生が指導案を書いたり、計画を立てると、どうしてもそれに沿っていかなきやいやいなというふうになってしまうので、<u>自由にやっというよ</u>というふうな形ですと、少しリラクセスをして、学生さんもやりやすいのかなと感じている。  <sup>(124)</sup>保護者の対応をしている保育教諭の様子を見てもらうというの<u>も取り入れている</u>。どのようなやりとりをして、保護者がどのような表情をしているのか。内容としてもあったことを伝えなくてはいけないこと、楽しいこと、いろいろあるから、今日はこんなことを伝えるから、聞いていてねというよ<u>うな</u>。朝の受け入れについても、どうやって受け入れていっているかみてもらっている。</p> <p>保①：<sup>(124)</sup>実習 I と II では変わってくると思っている。I は観察実習、<sup>(125)</sup>II は責任実習という形だが、初めて来る I の学生は、子どもとの関わり方で、<u>けんかか起きるとどこまでとか、お着替えはどこまでとか、甘えをどこまでとか、本場に細かなところ、子どもとの関わりどころで関係を築いていくところの悩みを持たれることが多い</u>。        私たちの園でも基本的には本場にやりたいと思うことを、とにかくやってみなさいということに対応している。難しいところはスタッフでカバーするので、本園では本場に<sup>(113)</sup>1人の子と関わっていくということ、<u>とことん関わってもらえればいいかと思っている</u>。甘えが強い子がいたら、1日中その子と関わるということも、また一つの学びだなと思っている。「どこまでお手伝いすればいいのか分からないです」と言われるが、まず、最初はどこまでもやってあげてくださいというよう<u>な指導</u>をしている。そういう中で、少しずつ子どもとの距離感というのが分かってきて、<u>ようやく次のステップに行けるのかなと思う</u>。そこは、課題感というよりは、<sup>(113)</sup>とにかく自分の思いで、<u>子どもと関わってみようというところが大きなところかな</u>と思っている。        実習 II になると、今度は一保育者としてどのような責任下の連携を取っ</p>	<p>保③：一番は、<sup>(116)</sup>子どもと遊んで楽しかったという経験を持ち帰ってもらいたいと思っている。また、保育者が子どもに関わっている中で、「保育者ってこんな風に子どもとかかわっているんだ、子どもたちと楽しくやっているんだ」という<sup>(117)</sup>保育者のかかわり見てもらいたい。よく厳しい先生に当たっちゃったりと心折れたらという話も聞かなくて、<u>厳しい保育者も何できびしくやっていかさちんと答えをもって</u>いるはずなので、<u>必ずその日のうちにその答えをもらえ</u>る時間を作るようにしている。<sup>(126)</sup>保育者と実習生が必ず一日の終わりに話をしてもらって、今日の保育を振り返る、お互いに振り返ることによっての<u>は、実は保育者の方にも振り返って今日自分がどうであったかという参考にと</u>てもなるので、<u>そこを一番大事に考えている</u>。<sup>(116)</sup>実習で楽しかった、<u>保育者になりたいたいという気持ち</u>をさらに深めてほしいと思っ</p> <p>る。子どももの近くに行っても表情が硬かったりとかい、声がかかれなかつたり、という学生もいると思うが、近くで見ているのもそれはそれで<sup>(118)</sup>子どもを理解してみていることがある。職員と私とで一度そのような方に聞いてみると、<u>やはり今<sup>(119)</sup>子どもがやっていることをしつかり、じっくり、見ているこの子が何をしたいのか、学んできてほしいというところがやはり言われていて、そらすと、話しかけるよりしつかり見ようと思っ</u>てそこにいたということがあった。その姿をやはり認めて「よく見ていたね」ということで、<u>こは記録に残そうね</u>という<u>ことで記録につなげるように指導</u>している。</p> <p>保④：<sup>(130)</sup>最初の<u>実習で反省会</u>をする<u>と、どうかかわっていいかわからない、とか、どういう言葉かけをしたらいいんですか、という質問</u>がとでも多くるので、そういう時は<u>近くにきてこそそと聞いて</u>ごらんと、<u>いつている</u>。保育者と同じにはなれないのだから、自分として、<u>学生として</u>できることをなんでもいいからチャレンジしてほしい<u>ことを</u>言っている。<sup>(131)</sup>実習のときの失敗は財産になるから<u>いっばい実習で失敗して、泣いてもいい</u>という<u>ことを</u>いつている。泣いてしまうことも多いが、「それはとてもいい学びだね」といつて<sup>(132)</sup>とにかく自信をつけるように指導している。<sup>(116)</sup>次の日も<u>楽しく来られるように、<sup>(114)</sup>子どももってかわいいなという経験</u>ができるという<u>こと</u>と思っ</p> <p>ている。        養③：大学でも、事前指導の中で学生には<sup>(66)</sup>失敗してもかまわないと伝えている。それをどこまで自分で乗り越えるというか、改善できるということが本質であるという<u>こと</u>を繰り返して聞かせている。しかし、<sup>(66)</sup>結果的</p>

ていくのかということとところに主軸を置いて、伝えるような形にしている。その中で先ほどの保護者との対応もあつたが、要は(100)子どもを取り巻く周囲にも少し視野を広げてもらいたいということがある。それは(107)一時保育であつたり、子育て支援であつたり、保育園はやはりいろいろな事情を抱えている子どもがいる。これがリアルな現場なので、踏み込み過ぎはできないが、こういった事情があるということだつたり。そういう中で学生自身が感じてもらつたり、考えてもらおうということ。少し、社会を意識しているような仕事を感じてもらえたらいいと思つている。

養②：非常にありがたい話だとお聞きした。基本的には、個人的には実習に行つて保育者になつてほしいと思つているが、悪い話をすると、残念ながら続かない学生もいる。続かない場合は文章が書けない。残念ながら。そういう学生はよく分かつている園にお願いするが、決して厳しくないところでも、こちらもちよつと無責任ですが、「奇跡は起きなかつたね」というようなことで。実習 I は行つたけど、II はとでもじゃないけど、あちらも勘弁だし、こちらもちよつと駄目だよねということと、というふうになつてしまふことが多い。また、難しいところだが、保育所のほうは無事終わつても、幼稚園はだめめというふうになつてしまふこともある。

そういう学生はちよつと置いておいて。まずは実習に行つて、たくさん学んできてほしい。とにかく学校で学べないことを学んでほしいので。やはり子どもの様子。いくらくビデオを見せても、1日通して、1週間、2週間通して見るといふ実習時間はないので。あとは先生の仕事。保育者の仕事を見てほしい、自分もそれに関わりたいと思つてもらえればそれでいいと思う。自分で抱負を、(88)立派な抱負を書いているが、途中で全部飛んでしまつて、忙しいうちに終わつてしまつたという。楽しかつたと言っている学生もいるが、それは受け入れ先が非常に丁寧に関わつてくださったというのものもある。いっぱい、いっぱいになつてしまつて、もう実習 II に行きたくないというような、(89)ネガティブな感じを書いてくる学生も少なくはないので、それをどうやつて実習 II にもついでいけるのか。1つ終わつて、終わりでないの、特に保育実習の場合 I から II になつて、施設実習もあつて、幼稚園とあるの

養①：(92)保育者を目指す学生は真面目な学生が多いのか、やはり失敗を恐れる。それから、(92)評価のことをすごく気にする。だから、事前のときに、失敗は成功の元ではないけれど、学ぶことがたくさんあるんだということと、よくよく授業の中で伝えてはいる。けれども、(90)やはりかなりの不安を抱えている。先生がおっしゃつたように実習中に続けられなくなるとか、あ

には無難に、(97)安全にという傾向が抜けきらないようである。

実習にいつて(96)思つていたのと違つたという理想と現実の違い、想像して見たのと違つたということでもモチベーションが下がつてしまつたという学生が少数だが一定数いる。たとえば、9月くらいに実習をしているので、運動会の時期に重なつていてるせいも、保育者が思ったよりも厳しいという状況を目の当たりにすることがある。一年間を通して保育を見ることであればよいが、それはできないのでどうしてもこの時期特有の(98)一側面だけで、誤つた保育者像を受けてしまふところがあるように思う。

(91)(92)学生にとつてよい経験となるのは、部分・責任実習。部分・責任実習があると、実習が始まる前は学生はとでも憂鬱そうで、不安がついてるが、終つて帰つてきたときの顔をみてみると、それくらいハートのハードルがあつた方が学ぶところが多いのではないかと感じる。

養④：(76)実践して感じてきてほしいことは、保育の魅力だと思う。それは、(77)まずは子ども理解をすること、(79)保育者の援助の関係をわかつてほしいということ。もうひとつは、(80)計画と実践と振り返りの関係性が見えた方がいい。実習中は12日しかない中で、短期的な今日の姿をどう振り返つて明日の計画に繋がつているかということが見える、(78)子どもの成長や(76)保育の面白さがわかるのだからと思う。そこに特化すると実習は面白くなるのではないが、(84)責任実習とか、(83)日誌の記録の形式とか、なんとなくそれが今邪魔しているような気がしている

(これまでに良かったと感じる実習はあるか)

養④：(108)先駆的で面白かつたのは、実習生がドキュメンテーションを作るといふ実習で、(109)実習日誌がドキュメンテーションであつた。園からやらせてみてもいいかということ、是非お願いしまふところもあると思うが、(111)写校によつては、その形式は対応できないところもあると思うが、(111)写真を用いたこと、面白さは、学生が見ようとする視点が焦点化されていくこと。とくに実習初期からの変容が見えてきやすいということ。もうひとつは、学生が文字や言葉だけでしゃべるよりも、(97)その場面の写真に言葉を足して実習指導者と一緒に話せることが助けになつて(99)場面を共有しやすくなるということがある。そのことから(98)自分がこう思つて、こうかかわつたという子どもも理解が語れたり、(102)(103)実習指導者から実は今この子はこういう継続したかかわりがあつて、その子どもの特性や背景みたいなことがあつたというところが具体的に保育者の援助がどうされてきたという話が語られる中で、わかるといふか、見えてくる。実習生自身も、子どもの遊びを追うようになつたり、保育者の姿を学生自身が見たいというような、課題に応じた動きが焦点化されやすくなるというのがみえた。

もう一つは、(100)学生自身は教えていただく人と学ぶ人という関係にある

実習期間  
中の経験  
内容

<p>実習期間中の経験内容</p>	<p>しゃったように、施設実習との連携だと思ふ。担当者が違うので。<sup>(162)</sup>保育所実習で自己評価をして、それが自分であまりよくなかったとしても、施設実習で案外よかったということがある。そこから自信を持って、保育所実習 II には、非常に生き生きと実習するという例が結構ある。そのことで、施設実習の担当者として自己評価のポートフォリオを作成して、保育所実習 I、施設実習 I それから施設 II、保育所実習 II という形でちよつと幼稚園等の影響は取れないが、最終的にそこまでのポートフォリオを作って、自分を可視化して、成長しているなということ、実習として成長しているということ、自信を持って社会に出てほしいという思いで、そういう取り組みをしている。</p> <p>(施設実習ではなぜ挫折せずにつながる要因はなぜか?)</p> <p>養①：記録の仕方が、おそらく記録でめげてしまう学生が多いと思うが、施設の記録はエピソード記録をしている。1 日 1 枚程度の記録で。しかもあまり細かいところを、記録については指導を受けないということがあって、結果が、やはり人と人のつき合ふこと、人間と人間の触れ合いだということ、子どもではなくてうまくできなかつたことを、施設の障害を持つ方とか、知的障害の方とか、児童養護施設の学童、中学生、高校生といった小さな子どもに学生が学ぶ。学生が、子どもでもはうまく関わられなかつたけど、何か施設実習はうまくいったなという、やはりちよつと視野が広がる。それから人間理解が深まるというところで、それが要因かどうかは分からないが、人として成長して帰ってくるような気がする。施設実習は、そうすると、保育所実習でも比較的肩の力が抜けて、自分が人として関わればいいんだというように、不安が大きい、失敗を恐れるというところがあるんだと思う。すごくのびのびと生き生きとやってくるのを見て、そこが恐らく施設実習ではないかということ、施設実習の担当の教員と 4 年前か、5 年前から、自己評価のポートフォリオを作った。</p> <p>確認をし合って、最終の、本人の総括、背景があって、先生方にも見えてただける。ただ、実習の何かにそれを入れ込む、本当の実習日誌の中でそういうのを挟み込んでいくところまでは聞いていない。別物としてやって。</p>	<p>が、「へえ、そう見えたの。実習生からその子そう見えたの、なるほどね。」と、かなり対等な関係が作られる中で、<sup>(101)</sup>その人の見え方を肯定した実習指導をやってくれたいという場面があって、そういう時にはかなり自己肯定感がある。「私なんかの意見をちゃんと受け入れてくれる」ということがすごく大切にされている。職員側も実習生が来てくれることが学びになるという姿勢を強く打ち出してくれたいというのがある。そういう事例がある。</p> <p><sup>(104)</sup>責任実習では、<sup>(105)</sup>子どもの姿から、<sup>(106)</sup>子どもの興味・関心、<sup>(106)</sup>今までやってきたことから、<sup>(107)</sup>計画を立てて、<sup>(108)</sup>実践から反省までを一緒にやって。学生の責任実習をやっている姿をビデオで撮って、「この時、このこは見ていたけど、後でこんなふうにはやっていたのよ」というようなことをいってくれたりとか、そういう指導は未来的なことだと思ふ。</p> <p>養③：特別なことはないが、最近、<sup>(110)</sup>可視化のいうことが大事にされているが、<sup>(112)</sup>子どもだけではなく学生を追っても写真や映像を撮るのは面白いと思ふ。</p>
	<p>保④：子どもも理解のところでは、特に<sup>(165)</sup>実習 II の場合、会議とかにも参加してもらっていいかなと思っている。<sup>(166)</sup>どういうふうに保育者が子どもが話し合う過程を見るときも大事なのかなというふうに思う。そもそもやはり保育士自身が子どもを理解できているのかというと、発達の勉強はもちろんできるが、やはり人として考えたときに、理解をしていくということが保育の仕事の主なところだと思ふので。その感覚をどう伝えてあげ</p>	<p>保④：<sup>(148)</sup>部分実習、<sup>(148)</sup>一日実習は、相当エネルギーを使うと思う。でも、終わった後に、<sup>(160)</sup>充実感と<sup>(151)</sup>達成感があればいいなということが願いである。自信をもって子どもにかかわってもらえるのが一番。</p> <p>(実習生が自信を持てるような指導とは?)</p> <p>保④：<sup>(152)</sup>積極的な学生に関しては見守りをして、<sup>(153)</sup>消極的な学生、<sup>(156)</sup>自信のない学生であることが分かった時には、<sup>(160)</sup>子どもと一緒に、寄り</p>



子ども理解のため

の  
工夫

で、そういう方向性で子どもたちのことを理解して、次の月にどう関わるかというところを相談している場に、学生にいてもらう、聞いていてもらおうというような機会を作るようにしている。

記録はこういう記録がいいのかは感想みたいになってしまっている学生もいるので、その辺、どういのがいいか、園の方も苦戦していて、「見直しをしないとすね」という話を園長ともしている。

時系列とエピソードの記録については、実習は毎日ある程度同じ。登園と最後とか、お昼とかというのは同じなので、もう少し絞って、実習の朝から最後まででの記録は大変じゃないかなというふうに思っている。

養②：実習が続かないと、<sup>(133)</sup>文章が書けない、指導案も書けないので、途中で駄目になったりというのほもちろんある。学生によっても保育の道を目指すという中で、なかなか<sup>(134)</sup>人前に立って集団で保育をすることを苦手な学生もいる。おとなしい子とか、真面目なんだけど大きな声を出して子どもと関われない。そうするとそういう責任実習、部分実習に振り替えてこなふうにやるといこととで、実習は向いていないなというふうになってしまうようなものもいることはいはいる。もったいないなことを思っている。今だと<sup>(135)</sup>小規模（保育）のほうに流れてしまう。できるだけ規模が小さいところ、小さいところにどちらかという逃げているという言い方、本人には言わないですけど、逃げているという評価をしますけれども、そういうもんじゃやないのかなというのほ、やはりもったいないと思う。

パソコンでの記録に対してそういう配慮があると。<sup>(136)</sup>記録はうちの学生はちよつとパソコンを使いこなせないのほ。現場のほうも理解して、パソコンでいいよというところもある。うちの学生のスキルというか、パソコンを持っていないと。学校にはあるけど、家にはないとか。スマホとかはいじるんだけどパソコンはないと、なかなかそういうのもあって。文章を書けない、書く量が多いという感じである。書ける、書けないという問題もあるが、書けるけど、教師から見ると書き直し。5枚書いたのに、5枚書き直したとか。もう、嫌になってくる。幼稚園からのほうが多いかなと思っていたが、そうでもなく、だいぶその辺は配慮していただいている園が多くなっていく。いろいろな要素が重なって駄目な場合ももちろんあるが、うまくいく場合は、その辺を配慮していただいて、どの辺をスタンダードにしてもらえばいいのかなというのほ難しいなと思う。

養①：<sup>(137)</sup>子ども理解については、やっぱり一番学んでほしいところ。実習授業自体を短大と4大が一緒になって、教員同士で教材作りをやっている。子ども理解に関しては、保育園に行つて映像を撮つてきて、自分たちで撮つた映像を学生に見せて、例えばトラブルとかがあるシーンだと、保育者がどうい対応をすればいいのとかというのを幾つか選択肢をこちらで挙げておいて、自分は1に丸をする、2に丸をする、3に丸をする、その他みたいに書いて、

ておいて、「ここであなたならどうしますか」、「ここであなたならどうしますか」という映像を7コマぐらい作った。どうしてそれを選んだか。自分だったらこうするという理由も書いてもらおう。そして、今度はグループワークをしますと、みんなが違うということが分かる。子どもへの対応は正解がないというところ。こういう正しい関わり方があって、そういうふうな正解が欲しいという学生が多いので、逆にこれだけ対応が違うから、幾つかの対応があつていいんだということを、学生が行く前からちやんやみんなで理解して、子どもに関わるように、そういう授業を作ったということが一つ。

子ども理解のため  
の  
工夫

それから<sup>(138)</sup>実習記録に関しては、今もちょっと取り組んでいる最中である。時系列も同じで、やはりⅠのほうはどうしてもクラスに2日とか、少ししか入らないので、エピソードを書くまでに次に移動してしまうと、やっぱり難しいのかなと思う。時系列が苦手な学生もいるので、実際にそれも教材作りからやって、保育園に行つて、時計を撮って、例えば1歳児だとか2歳児の映像のある部分、遊びの部分とか、それから、食事の部分とかを撮つてきて、そして、それを2つか3つあるんですけれども、時計が出ていますので、何時何分に、そこで気付いたこととかを書くようなトレーニングをしている。時系列はそういうトレーニングをしている。<sup>(140)</sup>Ⅱに行くときは、積極的にエピソードを書けるようにということで、Ⅰの日誌を持ってきてもらつて、その中から印象に残ったエピソードを自分で書き出すというのをやっている。

その<sup>(141)</sup>エピソードを書いたらまた、グループ分けで、どんなエピソードがあるのというところをお互いに読み合つて、グループワークをすというところをやつてから実習に行くので、ほとんどの学生が今のエピソードを書いてきて、時系列は作るぐらいいした。それが5～6年の取り組み。最初は現場に聞いてやりなさいと言っていたが、現場からそれは困りますと言われて、3割ぐらいしかできなかつた。今は8割、9割方が「エピソードでいいですよ」と言われている。今回は1人か2人が全部時系列で、90%以上の学生がエピソードを1本か多くて2本ぐらいは毎日書いてくるというような状態である。

<sup>(140)</sup>エピソードを書くこと、子ども理解が深まるし、読んでいただいた先生方から、「これは実はこういうこともあったのよ」という、<sup>(141)</sup>記録からまた子ども理解を深めるようなアドバイスをもらったりするので、すごく学んだという実感があるようである時系列よりも、やつぱりこちらのほうがいいと、Ⅰから書きたつたと、Ⅱの学生でも言っている。まだちよつとⅠでは躊躇しているが、少しトレーニングを入れたら、書けるのかもしれないと思っている。

<sup>(142)</sup>指導実習に関しては、非常に指導案をうまく書ける学生と、あまり書けない苦手な学生の差が大きいということが分かっている。グループワークで指導案を1本立てると言っている。3クラスあるが、各グループで1本立てたら、<sup>(143)</sup>それを元に模擬保育をやってもらい、実習生と子

	<p><u>どもになってもらって、実演するのをやっています。</u>その後、こういうふうにしたほうがいいんじゃないかということ、グループディスカッションをして、さらにそれを修正する。それをやってから、今度は本人が自分で指導案を立てるといって、できるだけ実力の差があまりないように、みんなが同じように指導案が書けるような授業をと思って、そういうふうになっています。</p>	<p>養③：訪問指導は、保育士課程担当の教員で行っている。 (160) <u>難しいと感じている。</u>園長先生に対応していただくことが多いが、(160) <u>保育者とは保育中で話をすることが出来ない。</u>学生と直接関わっている<u>保育者の意見を聞けること</u>とおおありがたいと思う。(162) <u>園長先生だと、(163)挨拶だけで終わってしまう</u>こともなきにしもあらず。直接指導している保育者と話をすることで訪問指導の成果を出せるのではないかと思う。 実習中は心配をかけないように「大丈夫です」という学生が多いように思う。実習をおえた後になくなって、事後指導の個別面談で「たいへんでした」と聞くことがある。(161) <u>実習中に学生の本音を聞くことが難しい。</u>実際に、学生は実習中、新しいことばかりで、自分で実習で今何を体験しているのかという<u>ことを消化しきれない</u>、整理できていないので、尋ねてもなかなかうまく返答できないのかと思う。</p>
<p>訪問指導</p>	<p>養②：教員によって才能というのはいろいろ差があるので、一概には言えないが、基本的には(171) <u>最低限実習生の様子を鑑み、かつ実習生と簡単でいいから、スーパービジョンとか、スーパーバイズとかいろいろ言っている方が、いい話をしてくれる</u>というのが大事だと思う。学生がいいと思っている教員も、いいわけではないので。 (全員担当ですか?) 養②：(167) <u>マニュアルを作ってやっています。</u>最初はどうかやってみていいか分からないうちのがある。記録のところでも最低限これ聞いてくださいというところでやっています。 養①：(169) <u>1年生からの学生情報というのをできるだけ学科で共有している。</u>リポートを提出したときにあまり文章が書けないとか、メンタル面で配慮が必要とか、グループワークをしていてもあまり発言がないとか、どうもグループワークが苦手のようなどうか。そういった学生の情報を事前に学科で共有しておくと、巡回に行くに当たってどういう学生であるか、実習現場の担当者から初めて聞かされるのではなく、実習訪問に生かしてもらえらえると思っっている。 マニュアルはもちろんあるが、できるだけ情報共有をしたかったので、気になつたことがあれば、これは担当者がフォローに行つたほうがいいという場合もあるので、記録してもらいたい実習中は速やかな情報共有を心掛けている 保①：まさに(169) <u>実習生の気持ち</u>をほぐしてあげてほしいというのが一つある。なかなか、実際のところは私も主任に託しているところがある。どこまで実習生の今の立ち位置だったり、課題だったり、悩みを把握できているかと言われると、至らないところがあると思う。実習生の現状、立ち位置を、園と違う立場から確認してもらいたい。あとは、私自身も反省していることとだが、<u>終わり際に違う業務に私が行ってしまった</u>、<u>帰られた</u>ということもあつたりするので、<u>実習生の感じている課題</u>などを最終的に共有して、<u>終わるといふような、そこをちゃんと自分自身が理解しておかない</u>けなかつたなというふうを感じていた。 保②：いつも先生が訪問にきてくださると、学生は泣いちゃうことがあつて。涙しながら出てくる様子を見掛けるが、それぐらい緊張しているんだなとい</p>	<p>養④：(168) <u>訪問指導は、学科教員全員で行っている。</u>単科の大学なので保育のことをわからずに訪問しているという教員はいないというところはよい。 事前指導の最後に、(164) <u>訪問指導に行く担当教員と学生複数で(複数)でグループ面談を実施している。</u>(166) <u>顔合わせや事前になるべく不安を聞き出して軽減させる</u>ようなことをしている。 実習では体験することが多様すぎて、達成したい課題はなにか、後半どのように実習していけばよいか、を学生とは話している。そうすると、ポタンの掛け違いが起こっている場合には、(169) <u>学生から話があるので、よく話を聞くようにしている。</u>また、(172) <u>現場の指導の担当の先生と話をするときも、(170) まず学生は学生の状況を聞き、ずれがある場合には(170) 学生本人がどう思っているかを聞いてみてほしい</u>ということも伝え、(173) <u>橋渡しをするようにしている。</u>学生本人はこういうつもりでとか、ちよつと委縮しているというふうな(174) <u>学生の状況を伝えることを心がけている。</u> 最近、(170) <u>欠勤の対応(補充)とか、実習期間が養成校で違うことがあるので、自身の学校での実習日数についての説明やお願いをしている。</u>学生が時々、そういうことを自分でできずに実習日数が1日足りないというふうなことがあつたりするので、そういうこともしている。 (172)(169) <u>指導者と学生と両方の話を聞く</u>ということをしてはいるが、<u>実習状況を聞く項目としては、(176) 日誌、(176) 子どものかかわり、指導者との関係、(177) 課題の取り組み等の項目を立てて共通に聞き取れることを決めて訪問指導を進める</u>ようにしている。</p>

	<p>うのがやっぱり感じられる。来てもらったらここにここで声を掛けて「頑張つて」と言ってもらえたら一番いいというふうには思っている。あとは学生の様子を養成校の先生が話してくれるので、それを聞いて、その後、後半戦の対応がやりやすいというふうには思っている。</p>	
<p>保護者支援の理解経験</p>	<p>保①：私が前いた保育園では、子育て支援センターが併設されていたので、実習生の実習のねらいをしっかりと聞いて、そういうことを支援したいというふうな思いを持つ学生には、<u>(2223) 保育のクラス配置だけじゃなく、支援センターのほうにも行けるんだよ</u>ということは話をしている。</p> <p>保②：<u>(2229) 保護者支援のところは本当に課題で、難しいところ。なかなか保育者自身も理解するのに、考えさせられるところがあつたりしている。</u>その中で学生にこのところの経験だったり、理解というのは、どういう形であげたほうがいいのかというの、まだはつきりしていないところがある。保護者支援はその家庭によって違つたりするので、支援の仕方というのでも難しいと思つている。</p> <p><u>(2230) 話としては説明ができて、理解となつたら、そこまではちよつと難しいのかな</u>と思うところもある。実際に来た人に対して、聞いた、表情を見たり、保護者の様子をとるところが。</p> <p>養②：大体やってきてほしいと思うのは、先ほどお話しいただいたように、<u>(2207) 送迎のときに子どもと親御さんとの関わりの様子</u>を見ること。あとは<u>(2208) 支援センターがあれば、そういうところは一時保育とかをやつていれれば見せてもらう</u>というの、<u>(214) IIのほうで保護者支援、地域子育て支援が入っている</u>。項目を見直したいので、どれが大事だと思ふか、どれが評価しにくいかと聞いたら、一番初めに評価の必要がないときたのがこの子育て支援で</p>	
<p>保③：訪問指導では、<u>(196) 必ず訪問指導の先生に実習している姿を見てもらうようにしている。</u><u>(196) 子どもとどんなふうに見ているかを見てもらうようにすることを必ずしている。</u></p> <p>途中経過ではあるが、<u>(197) 実習日誌などを読んでもらって</u><u>(198) 学生の気付きを確認してもらったり、記入状況によっては訪問指導の先生から指導してもらうようにしている。</u></p> <p><u>(194) 最初に学生の状況について説明し、</u><u>(193) その後</u>に学生と面談の時間を作り、<u>(194) 訪問指導の先生から、学生にフィードバックしてもらうようにしている。</u></p>	<p>保④：訪問指導では、まず<u>(190) (191) 学生と訪問指導の先生とが応接室で</u><u>(192) 話をする場を作っている。</u><u>(196) 園長と話をしている</u>が、保育中はどうしても手が離せないで保育に当たつている直接の学生の指導の保育者とは確かに話す時間はとれていない。先ほどの話を聞いて、「あーそうか！」と気づいたが、立ち話程度しかできない。</p> <p>訪問指導の先生がくると、実習生も学生も先生に戻つて話をし、すつきりとした顔になつて現場に戻つてくる姿がある。<u>(200) 学校の先生と会うことで実習生も元気になる</u>。訪問の先生の偉大さを感じている。</p> <p>保④：保護者の方に実習生が来ていることを知らせている。<u>(217) 保護者への挨拶をするよう実習生に指導している。</u></p> <p><u>(223) 支援センターでの実習では、</u>保育所とは機能が違うので、聞くことに徹するよう指導している。<u>(215) 相談をされている母親の隣にいる</u><u>(216) 子どもと遊ぶことはしている。</u></p> <p>保育園の方の実習では、<u>(219) 実習生であつても保護者の方から質問がきたりすることもある</u>ので、<u>そのような時は実習生であることをきちんと伝え、難しいことは答えないように指導している。</u>もし、<u>(218) できたらその日の子どものかわいかったところを1つ伝えるよう指導している。</u><u>(220) 子どもの家庭ノート(0から2歳)というのがあるが、それを読んでもらい、それに対する</u><u>(222) 質問に答えるようにしている。</u></p>	
	<p>保③：<u>(225) 一番難しいところだと現場では思っている。</u>毎日、地域の子育て支援をしているわけではない。たまたま<u>(226) 実習中に何かやつている時には、</u><u>(227) 見てもらうことができるが、それ以外は、</u><u>(228) やつていることの説明で終わつてしまふ。</u></p> <p>保護者との会話というの、<u>(231) 守秘義務のこと</u>もある。実質やつてもらうことは難しい。<u>(220) 連絡帳との保護者とのやり取りを読んでもらうことにとどまつている</u></p>	<p>養④：<u>(214) 実習 IIの大きな柱ではあると思う。</u><u>(209) 受け入れ側の園の事情で大きく変わつてくる。</u>1回目の実習から<u>(208) 地域の支援の実際を</u><u>(202) 見学、</u><u>(202)</u></p>

<p>保護者支援の理解経験</p>	<p>あった。評価できないと。かといって外せないからどうしようかと今、悩んでいる。</p> <p>これは幼稚園でも同じような状況である。幼稚園には子育て支援はないが、評価項目に入れてやってみたら、幼稚園は子育て支援がもともと入っていないですよねと反応があった。<sup>(210)</sup>現場側の理解はもちろんならと思うが、評価表に子育て支援を入れたときに、どのように評価したらいいのかというところと随分悩まれているという状況があった。こちらとしては、学生が一生懸命それを理解しようとしてくれればいいというぐらいいのところがなのだが。その評価基準はどうなっただけいいんですかと言われると、なかなか答えられなくて困っている。<sup>(211)</sup>地域子育て支援になってくると、たまたまそういう行事があればいいが。その辺は実習は難しいのかなとは、やってみようとは思っている。</p> <p>養①：私の所も同じで、<sup>(207)</sup>送迎のときに保育者が対応しているところを<sup>(202)</sup>できるだけ見て、学べるようにというところは強調していきたいと思う。それから、<sup>(208)</sup>連絡帳を読ませただけというの、ぜひお願いして、読んできなさいというように言うことを言っている。実践的なところはやはりまだ実習ではできないので。そこで、<sup>(205)</sup>4年次の保育教育実践演習で保護者支援のロールプレイをやったり、それから、<sup>(206)</sup>模擬保護者会をやったり、<u>連絡帳の返事を書いてみる</u>とか、そういった実践的なトレーニングを保育教育実践演習の中で、補う意味で、現場に出る前にやっているとこういうような状態。</p>	<p>体験できる場合もあれば、できないことも多い。できない場合には、<sup>(204)</sup>実習生の方からクラスの保育以外に地域の子育て支援、保護者支援でどのようなことをしているか質問して学んでいる。そういう学びをしてほしいので、<sup>(206)</sup>実習日誌にはそのような書く欄を設け、そのことは自分から話を聞いてくるように指導をしている。</p> <p>養③：<sup>(212)</sup>この問題はとて難しいと感じている。家庭のプライバシーに関わってくる難しさがある。子どもの家庭背景、生育歴について、学生も想像したりすることはあるのだと思う。養成校としては、そのことがプライバシーの保護にあたいするものであるかは現場が判断することなので、<sup>(205)</sup>学生へは聞くだけ聞いてみて学んでくれるよう指導している。</p> <p><sup>(206)</sup>連絡帳を見せただけというように指導しているが、学生は家庭のことを質問することはいけないことなのではないかと思っているような状況があった。なかなか自分から言えない。<sup>(213)</sup>学生の守秘義務としては実習で聞いたこと、見たことを外に漏らしてはならないことであるが、そのことを学生は質問してはいけないと理解してしまっていることもあり難しさを感じている。</p> <p>自身の学校ではないが、近年 SNS への書き込みなどが世間では問題になっているのでそのことは繰り返し指導をしている。</p> <p>(守秘義務の現場での指導はどのようにしているか?)</p> <p>保③：守秘義務に関しては、<sup>(221)</sup>いろんな子どもたちがいて、母親がいて、いろんな考え方もあるというところも伝えつつ、「保育園の中で見たこと、聞いたことは外では話さないでください、<sup>(233)</sup>実習に必要なことから<sup>(220)</sup>連絡帳も見せています」ということを伝えていく。</p> <p>保④：<sup>(224)</sup>保育実習の中で保護者支援は本当に難しい。現場の方でも難しいことになる。家庭を伝える第一の手段が連絡帳なので、<sup>(232)</sup>連絡帳をみても他では言わないよう、<sup>(234)</sup>ここだけであることを伝えていく。</p> <p>養③：<sup>(228)</sup>事後指導では、実習担当者が実習園からの評価票が戻ってきた段階で、<sup>(238)</sup>15分から20分ほどの個別面談を実施し、<sup>(241)</sup>実習の学びや<sup>(242)</sup>自己課題を尋ねている。また、<sup>(240)</sup>モチベーションが下がっている学生がいた場合には、話をよく聞き、<sup>(244)</sup>前向きに学んでいけるよう指導している。</p> <p><sup>(249)</sup>報告会を実施している。報告会では一日時間を取って、様々な学年の学生が保育所実習のⅠとⅡ、施設、幼稚園実習も一緒にそれぞれ順番に発表している。また、<sup>(252)</sup>先輩・後輩で情報共有できる時間も作っている。<sup>(255)</sup>学生同士の交流が日常では難しいので、学生はそのような場を喜んでいる印象がある。</p>
	<p>養①：<sup>(223)</sup>まずすぐに自己評価をしている。<sup>(243)</sup>振り返りシートと自己評価表を2部、記入させて。その後、<sup>(248)</sup>自分で評価を低くしたかというところも含めて、グループで話をしてもらう。そして次への課題をどう考えるかという辺りを自分のイメージができるようにして、Ⅱへの準備という形で記録を残しておく。Ⅱの実習の初めにそれを本人に返して、そしてⅡの実習の事後指導を生かしてもらおうようにつなげている。保育所実習Ⅰから保育所実習Ⅱに行くとき、そういうふうに行っている。</p> <p>それから、<sup>(254)</sup>事後指導の中に、全教員が学生を10人ぐらい受け持っていることで、反省会をその教員の元でやっている。グループ別にやってもらうことで、<sup>(256)</sup>実習状況を細かいことまで知ることになる。うまくいったとか、</p>	

事後指導のポイント	<p>いかなかったとか、保育者に厳しく注意を受けたとか、そういういろいろなることを反省会で言うので。例えば<u>教養の先生も保育の科目の先生も、みんな同じように情報を得ている。反省会をやったところで、一人一人のシートに教員が状況を書いて、実習センターに提出する</u>というような方法を取っている。後で出てくる評価の問題だが、<u>評価の時に低い学生については、別枠の記入表を用意していて、面談をして、細かく指導してもらおうようにしている。</u>(面談のやり方は?)</p> <p>学内指導の先生と言っているが、<sup>(265)</sup> <u>2年生の幼稚園実習から4年生の実習までずっと同じ教員が受け持つ形になっている。ゼミと同じような考え方なので、すごく関係が深まる。担当者は大勢の学生に対応している</u>ので、それよりも関係が密になっている。なので、まずは学内指導の先生に成績が悪く状態、どういう指導をするかというのを。そして記録を書いてもらったものを、担当者が読んで、それでもちよっと心配な場合は呼び出しをして面談をする。</p> <p>保②: <sup>(263)</sup> <u>実習生にどんな形でその事後指導をしたらいいかという学校側の考え方や方向性というのを知れたらいいというふうに思っている</u>。この部分を指導してほしいとか、そういうものがあればいいなと思う。一応、反省会、ふり返り会みたいなものを実習園のほうでやっていて、そこは<sup>(262)</sup> <u>指摘とか評価ということではなくて、前向きな方法で指導はするようにはしている</u>。どういう学生さんにどんな言い方ややり方をしたら伝わるのかなと思いがらいつもやっているの、<sup>(265)</sup> <u>養成校の先生たちと話しする機会を持ちたいなというふうには思っていた</u>。</p> <p>保①: <sup>(264)</sup> <u>園側もやはり評価というものの考え方をしっかりと理解させてあげることが、職員に対しては難しくたりしている</u>。やはり実習生も自分がどんな評価を受けるのかとか、そういう他者評価の部分で、自分の評価を決めてしまおう視点も少しはあったらあるのかなと思つて。先ほどからポートフォリオの自己評価にしても、その自己評価の仕方、評価はこういうふうにするんだというところを、しっかりと伝えていただけるといいのかなというふうには思つた。どうしても他者の評価を気にするというのがあるの、ここまですべて実習生側の話になっているが、1年後の現場に出ている職員というのは、さほど、何も変わらないので、多分同じ課題を抱えているのかなというふうにも思う。まず、評価のあり方、自己評価のあり方というところを。</p>
<p>養④: <u>終わった開放感がどうしてもあるが、しっかりと振り返り学んでほしいので事後指導には力を入れている</u>。<sup>(266)</sup> <u>実習と実習(保育所)→施設→幼稚園→保育所 or 施設→幼稚園)の間をしっかり繋いでいかないといけないと考えている</u>。<sup>(267)</sup> <u>保育所実習が終わったらそれをどう施設実習につなげるか、と</u>いうことを考えている。それが、自身の実践現場での課題としてつなげることが多い。</p> <p><sup>(269)</sup> <u>個々の振り返りの中で、最初は挨拶ができていないとか、積極性がな</u>いとか、そのような課題が上がってくる。自分が持つ積極性とは何か、現場でよいと言われたこと、例えば「笑顔がよい」とか「丁寧だ」とかいわれたことを<sup>(268)</sup> <u>どうプラスに生かすのか、そのようなことをどうつなげていくか</u>ということを考えている。</p> <p><sup>(265)</sup> <u>実習をつなげていくことができるようテキストも作成した</u>。「実習振り返り曲線」という名前で、12日間を折れ線グラフで、1つはモチベーションと体調を記入する。良かったことと悪かったことを記入できるようにしている。実習にはよくなった感情とダメだった感情がある。学生はダメだったことはよく覚えているが、良かったこともあるはずで、そこを伸ばしていくことが大事なので、その辺りを意識したワークシートになっている。<sup>(267)</sup> <u>実習の振り返りが次の実習の目標になっていくような事後指導を大事にしている</u>。<u>実習評価としては、学生が気になるところで、<sup>(265)</sup> 自己評価と<sup>(267)</sup> 大学の評価があるというのを伝えている</u>。</p> <p>難しいが2学年が一緒に<sup>(266)</sup> <u>実習の多様な経験を話すことで、<sup>(261)</sup> 学びを共有し深めていけるようにしている</u>。</p> <p>保④: <u>よかった感情とダメだった感情という話がとても興味深かった</u>。ダメなことの方が印象に残っているということがわかった。<sup>(269)</sup> <u>反省会を園でも聞いているが、その時に<sup>(262)</sup> 実習生が前向きな形で終われるようにやっていた</u>。毎日書いている日誌などがどう生かされているかがとても気になっていたが、養成校で学びに繋がっているんだということがわかってよかつた。</p> <p>保③: <u>そういうふうな事後指導をしていたということを聞くことができてもよかつた</u>。</p> <p><sup>(266)</sup> <u>学生のよかつたところをなるべく伝えるようにしているが、それでも自分でダメだったと、こちらが伝えたこと以上に挫折感があったりするのは</u>、<u>ということも今日の話でわかつたので、次からの実習生にはもつと<sup>(261)</sup> 自信をもつてかえつてもらえるような反省会のあり方を考えていかなければなら</u>ないと思つた。</p> <p>保③: <sup>(268)</sup> <u>実習の評価は最後の最後で頭を悩ますところである</u>。<sup>(266)</sup> <u>どの職員に聞いてもなるべくよく書いてあげたいと言っている</u>。・評価にはいろんな項目があるが、実習生であつてまだ保育士ではないというところで、この先、<sup>(265)</sup> <u>実習評価を見て頑張ってもらいたいという思いで、<sup>(261)</sup> ついつい甘くつ</u></p>	

(評価をする上で困ったことは?)

そういうときには、自分のところの文書で記録として書いたり、評価は評価で出すが、別のところでもちよつと話をしたりとか。<sup>(286)</sup> こういうところを頑張るとも少しよくなるよというような方向性で話をするようにしている。

保①：評価のところではどうしても保育者としての適性の部分もある。そこはやはりあるけれども、そこだけで終わってしまうのではなく、その方がまさにどうかかなというところ。評価で話をしているけれども、<sup>(287)</sup> 自分の課題をどのよう<sup>(288)</sup>に捉えられているのか、そこはそこですみ分けて、2つの視点で評価することが大事なのかなと思っっている。

実習評価

けてしまっているところがある。実習生を預かっていると、2週間という短い期間であっても、かわいいと感情が生まれる。<sup>(282)</sup> この実習生に保育士になつてもらいたいという思いや、また<sup>(283)</sup> 次のステップを頑張ってもらいたいという思いで実習評価をつけている。

どの養成校も評価内容に大きなずれはなく、同じような項目で評価票がとどいているので、とくににつけにくいというようことはない。

保④：<sup>(285)</sup> 保育実習で経験したことを生かせるように評価は前向きに経験したことを生かせるように、前向きに捉えてもらえらるような評価をするようにしている。<sup>(282)</sup> 「どうが保育士になりますよ」という思いを込めて評価している。一緒に保育ができた方がいいな<sup>(283)</sup> と思って評価している。<sup>(288)</sup> コメント欄が小さな養成校があり、伝えきれないことがあり困っている。

<sup>(282)</sup> 実習生から学ぶことは多い。<sup>(283)</sup> 実習生からは新鮮な目で見られるので、こちらとしてもピリツとするところがある。

養③：<sup>(273)</sup> 5段階の評価票を採用している。評価には大きく2つの傾向があつて、4を基準につけているものと、3を基準につけているものがある。<sup>(279)</sup> 結果的に、どの学生も同じような評価になつてしまふ。この学生がどうだったのかとか、他学生と比べてどうなのかということは見えてこない大学として評価票を使いこなせていない。

<sup>(277)</sup> 評価票のコメントは楽しみにしている。学生に一番響くのはコメントだと思ふ。ただ、<sup>(278)</sup> どちらにとつても負担かと思ひ、コメント欄は小さくしている。

養④：評価票については変えたばかりである。問題点は、<sup>(274)</sup> 学生が1, 2, 3, 4, 5という数字を見て、そこから次の実習につなげるということと思つていない状況があり、<sup>(276)</sup> 数字上の良かった、悪かったという判断になつてしまふので、これをどうにか変えなければならぬということになつた。そこで実習園との連絡の中で、実習園が評価をすることは難しいという話があつていて、どうしたらよいかということを考えていた。実習ミニマムスタンダードでも評価票があるが、それと同様に<sup>(279)</sup> 本学でも態度から評価が入っている。あらためて態度から入るのはやめようという話もできた。ミニマムスタンダードでもあるように、<sup>(286)</sup> 次に生きているのが評価の目的であつて、その評価でよし悪しを決めるわけではなく、どう次に生かせるかということを考えた評価票にしたいと思つた。そもそも評価票を変更していかつたので、評価項目と実習の目標とがずれていることも起こつていたので、それも含めて新しくすることとなつた。

<sup>(280)</sup> 態度の部分では守秘義務の理解とか、<sup>(281)</sup> 保育士の職業倫理とかからめたものにしようということとなつた。1, 2, 3, 4, 5という評価をやめて、非常に優れている、優れている、適切である、努力を要する、というような

実習評価

		<p>ものにした。さらに、「総合所見」という名前ではなく、「優れていた点、期間中に成長や努力が見えた点、次への実習への課題」というタイトルに変更した。実際にどうかかはまだ評価をしてもらっていないのだから。実習生には開示すること、園には伝えて、<sup>(267)</sup> 次の実習につながるようなもの、<sup>(268)</sup> 実習生の課題はこれだということが伝わるものになると思います。</p> <p>学生は<sup>(269)</sup> 実習中に日々の振り返りや反省会を行ってもらっていて、そこで丁寧に評価を受けたり課題を明確にしている。<sup>(270)</sup> こうした内容と評価票が連動したものになるようにしている。</p> <p>実習園からは、<sup>(271)</sup> 自分たちの評価が学生の実習の単位評価にすべてかかわってくることを危惧をされるので、そうではないということ、<sup>(272)</sup> 総合的な評価であるということをなるべく伝えるようにしている。</p> <p>(養成校と現場の実習指導の専門性と研修についてどう考えるか?)</p> <p>保④：<sup>(315)</sup> 保育現場への実習指導の研修はあったらいいと思う。年間を通して実習生はたくさんいるが、<sup>(309)</sup> どう指導していいのが難しい。<sup>(310)</sup> 学生へ向けた実習の本はあるが、指導する側の保育者に向けた実習指導者の本がない。普段の保育には点数をつけることがないので、とても心苦しく思っている。ほんとはダメだと思うが、おまけをつけて評価してしまうことがあるので、<sup>(312)</sup> 評価の観点のポイントがわかるとよい。</p> <p>大学の授業を見させてもらったことがある。その際、子どもの映像を見ていて、<sup>(313)</sup> 現場の捉え方と学生の捉え方が違っていたことがわかった。指導を中心とする保育者が学生から離れすぎていて、少し錆びてきているように思うので、研修があったら是非、参加したいと思う。</p> <p>保③：<sup>(315)</sup> 実習指導の研修には是非参加したいと思う。<sup>(311)</sup> 実習生の指導を専門的に学ぶ場を今持っていない。<sup>(314)</sup> 実習生が書いた日誌のコメントについても、どのようなコメント書いたらよいかなど、含めて学ぶ場があったら本場に良いと思う。</p> <p>養③：<sup>(305)</sup> 養成校の教員と現場の考えのズレがあるのだと思う。そのあたりを埋めていくことが大事と思っている。たとえば、<sup>(306)</sup> 養成校と現場の実習生を評価するポイントがずれていることがあるのだとおもう。そのようなところを<sup>(307)</sup> 一緒に意見交換、<sup>(308)</sup> 学べる機会があるといい。</p> <p>養④：<sup>(294)</sup> 保育現場にいたが、実習指導をどうしたらよいかという<sup>(295)</sup> ノウハウはなく、<sup>(296)</sup> 自分が受けた実習の経験しかない中で、現場では実習指導をせざるを得ない状況がある。<sup>(297)</sup> 本来的に保育の仕事が面白いという所を指導していくには指導の質が大切で、<sup>(298)</sup> 現場の研修が必要と思う。<sup>(299)</sup> 養成校でも教員同士の指導がそろわないという現状があった。<sup>(299)</sup> 養成校でも教員の指導の質をそろえたいと思う。それぞれ努力をしていると思う</p>
その他意見	<p>養②：事前指導は一生懸命であるが、終わってしまうと、「終わった」というのが結構多い。教員もそうなる。事前指導は他の先生方がやってくれているので、私は事後指導だけやりますと言っていて、とにかく保育者になるのが嫌になってほしくない。震災の前ぐらいから、5〜6年ぐらいい前から、ワールドカフェなど対話型のグループワークを入れて、ネガティブな話は一切させないようにしている。まず、ちょっと嫌なことを言わせて、その後は、楽しかったこと、「先生これ、すごかったね」ということだけ散々話をさせると、「また実習に行きたくない」となる。ちよっと難しいけれども、このような形を初めていいなと思っている。</p> <p>短大なので、実習が終わるとすぐ就職という状況。10月ぐらいいに実習が終わって、この時期に内定をもらうと気が抜けて、あとは消化試合というか、早く終わらないかなというような感じになってしまうので。そうならないように、実習指導をやって、つなげるようにしようとは思っているがなかなか難しい。</p> <p>(養成校と現場の実習指導の専門性と研修についてどう考えるか?)</p> <p>保②：最近これについて、園長と話す機会がある。実習生を受け持つに当たって、どういうふうに指導していくかという指導を受けていない。年に1回やってきたもので指導するという感触でやっている。園に勤めている保育者がみんな受けられるはずごく大きいと思っている。園に勤めている保育者がみんな受けられると、そこに向かって実習生を受け入れて、次に育てるというほうにならなかつていく。この研修の大切さが話し合いの中で出ている、大切なところだと思</p> <p>保①：こういった<sup>(316)</sup> 研修があるということは大それたなと思っている。例えば失礼な話になってしまうかもしれないが私たちが現場としても、養成校からしてもお互いに気を使うことで、実習生が中心に宙ぶらりんになってしまいうような立ち位置の中にあるような感じがしている。いつも来る養成校の先生</p>	

その他 意見	<p>方もすぐく申し訳なさそうに話したりするので、これは社会全体として次の保育士を育てていくところでは、大事なことだと思う。<sup>(316)</sup> <b>実習生をどう捉えるのかという、保育現場と養成校の共有する場が今まではなかったと思う。</b>そこで改めて、しっかりサポートしていくのもまた一つの大事なことで認識が生まれてくるのかというのかなと。そこに実習生さん自身もなかなか自分の責任を理解しているのかというところはあると思うので。<sup>(317)</sup> <b>その三者がしっかりとその責任感を持つというきかけにしていることはありがたいと思う。</b></p> <p>養②：現場のほうでも昔からやっている園では大体ご理解いただいているところが多い。<sup>(302)</sup> <b>新制度が始まってから、たくさん園が増えているので、そちらの方には出たくなかないというのが申し訳ないけれども正直ある。</b>でも、それでも機能はやはり保育園だから、<sup>(298)</sup> <b>現場のほうでもこういう研修を受ける機会がほしいなと。ちよつと偉そうですけれども、思うところと。養成校のほうも、長くやっている何となく分かってくるが、<sup>(303)</sup> <b>どんどん養成校の数が増えて、現場と同じように増えているので、やはりノウハウを持つていない学校というのがある。新しく雇いましたとなると、そういう<sup>(300)</sup>経験が全くない。少なくともメインで単位を出すような人とか、そういう人の準備支援を含めてある程度研修を受けて、自分のやっていることが正しいかどうか確認する機会はあるんだろうなと思う。</b></b></p> <p>養①：s 大学の場合は、創立 75 年ぐらいになって、実習園がもう定着しているんです。 逆に悩みとすれば、<sup>(304)</sup> <b>伝統的な指導方法、それがもうある程度固定している部分も正直あって。</b>だから、非常にしつかりと指導していて、そういう意味で余計な口を出さないほうという状況もある。自信を持って指導をされている園が多くて。だけど逆に言えば例えば時系列を細かく書かせる園だと、か、そういうところがなかなか変わっていかないという悩みがある。それで、3 年ぐらい前からそのことを何とかしたいと思い、去年実習園に呼びかけて、実習日誌の記録についての勉強会をしませんかと。そうしましたら集まっています。</p> <p>やっぱり保育士さんたちは忙しくて、そういった勉強会という夜とか、そういう時間帯になってしまうので。やっぱり園の主任さんとか、実習担当の先生方に呼びかけて、まずはその先生方から伝えていただけのように。今の養成校の状況、養成校の方針が今、ちよつと変化してきている、学生の様子もあるんで、こういった指導に少しスライドしていついていて、そういう状況を伝えながら、勉強を一緒にしていましようという形の姿勢で呼びかけたら、非常に熱心参加していただけた。何回かややる中で、「先生、分かりました、時系列がよく書ける子は、時系列は要らないですわ」と言っていた。それは、ご自分で感じたんだと思う。時系列が書ける子は当然、エピソードも</p>	<p>が、やはり難しい。各養成校の特色はあるけれども、<sup>(301)</sup> <b>求めるところの本質はここだということが揃ってくることは重要なことだ</b>と思う。</p>
-----------	--	--

	<p>書けると。だから、その学生によって、指導の内容を変えればいいんだというふうな。養成校じゃなくて、実習園側からそういうご意見をいただいた、とても勉強になった。</p> <p>現場の先生方が実感してご自分の指導をこういうふうにしたという思いになられることが大事じゃないかというふうに思ったので、<b>養成校が一方的にこうやってくださいというやり方よりも、昔のやり方で、これからはそうやって協働してやって、学生にとっくい実習になるようにと思った。</b>とありあえず実習担当の教員が知る必要があるもので、実習担当者全員、助教さんも含めて、そういう勉強会に参加しましょうというところで呼びかけている。それ以外の先生までは。</p>	
<p>有識者 コメント</p>	<p>有 A：幾つかポイントがあると思う。 実習の種類が <sup>(318)</sup> 保育実習 I、II があって、<b>施設実習</b>があって、<b>幼稚園</b>が<b>あ</b>って、この<b>トータルに実習全体を見通しながら、描きながら、そして学生が段階を追って成長をしていく</b>、一つ一つの<b>実習が次の実習につながっていく</b>。養①先生がおっしゃったように、施設実習があったことで、そこで多くの<b>変化があった</b>ということは大変示唆に富んでいる。そういう意味では <sup>(319)</sup> <b>施設実習や幼稚園実習等も含めて、どういう順番でどういった成長の過程を描いていくかということ</b>を、<b>教員側もそして施設側も共有できれば</b>いいというふう<b>に思った</b>。やはり保育はプロセスが大切で、保育を作り出していくプロセスと体験してほしいと保①先生がおっしゃった、そういうたとえも含めて、<sup>(320)</sup> <b>この成長のプロセスをどういうふう</b>に確認したり、可視化したりしていくか<b>というところが大きな課題だ</b>というふう<b>に全体的なこととして</b>思った。</p> <p>例えば実習 I と実習 II の <sup>(321)</sup> <b>実習日誌の様式があまり変わらない</b>。がちつと作り過ぎると柔軟性に欠けてしまうけれども、でも <sup>(322)</sup> <b>その段階によって書く様式も含めて、変わってくる</b>。だらうな<b>ということは、実習日誌の様式も含めた内容</b>というのを、<b>どのように変わっていくか</b>ということ<b>を再考したほうが</b>いい。実習 I と II の様式を変えるということも含めて、考える必要がある。加えて、施設実習、幼稚園実習、それぞれの<b>実習日誌の様式</b>はそれぞれの担当者がそれぞれに作って、これでもいいと思ってやっている現状もある。<sup>(322)</sup> <b>生によって指導が異なる、あるいは異なるというところも認めていく</b>という<b>かという問題もある</b>。</p> <p>学生の実習評価にはたくさん項目があるが、保育園側の評価とか、教員側の評価がない。なくはないのだが。自己評価としてはあるけれども、そういう項目としてはない。<sup>(324)</sup> <b>評価の根本的な捉え方</b>という<b>か、考え方の見直しをしなければならぬ</b>と思う。成績を付けて、A とか B とか C とか決めつけるような評価ではなく、本来の評価というのは、<b>どういうことを求めて、</b></p>	<p>(有 B：養成校と実習園の意見交換の場は持っているか?) 養③：今年はじめで、学生の実習報告会の時にお一人園の先生をお呼びすることができた。養成校と実習園の意見交換の場はこれからの大きな課題である。今は、訪問指導の際に、話をすることが唯一のつながりとなっているのが実情である。</p> <p>養④：実習の連絡会というのを、保育所、施設、幼稚園と3つの実習毎に、毎年実施しているが、結構な労力である。その内容は、「お願いします」とか「就職を」というような話ではなく、学生の話であるとか、オリエンテーションについてとか、自己課題についてなど、つっこんだ話ができるようなテーマをもって実施するようにしている。</p> <p>保③：養成校から案内をいただいているが、時間をつくって出向いて話をすることができていないので申し訳ないと思っている。</p> <p>保④：自分の立場が昨年まで副主任、現在主任であるが、養成校とのかかわりは園長が担当しており、現場の方では養成校と関わりがないのが実情、養成校に関してはわからないことだらけである。</p> <p>有 B：第一に感じたことは、対話が必要であることである。対話が必要だが、難しいと思うのは、<sup>(330)</sup> <b>現実には実習園と養成校それぞれの多様性があること</b>である。どちらも一対多であらう。<sup>(330)</sup> <b>養成校は複数の園へ実習を依頼し、その複数の実習園にどのように対応すればよいか、なかなか難しい問題を抱えている</b>。一方、<b>実習園は複数の養成校から実習生を受け入れている状況</b><sup>(331)</sup> <b>あり、名前が一緒でも異なった内容の実習を受けるということがある</b>。<sup>(331)</sup> <b>養成校、実習園の両者の間にも対話が必要であるし、認識のズレがある</b>。それだけでなく、<sup>(332)</sup> <b>養成校間のズレもあり、その間も対話ができていない</b>。実習</p>

どういうことを狙ってやるものなのかというところを、<sup>(325)</sup>根本に考えれば、学生が保育の面白さや、深さや、やりがいを感じたり、考えたりする、そしてそれが子どもも理解や保育園のよきより、より高度な理解というか、求めようとする気持ちになつていくのか、そういったことになつていくような記録や評価、そういうことをもう一度考えなければいけないだろうなというふうに思った。

実習園でも自信を持って実習指導は任せてというふうな所もあれば、教員のほうでも自分は保育の専門じゃないんだよなと言いがながらも何かやっているとだんだんすごくしつかり、いい指導をしている先生もいる。そういうふうなものもトータルに裾野を広げつつも、<sup>(326)</sup>何かもう少し教育とか実習自体の根本的なところにシフトを変えられなれないかというふうに思う。

<sup>(327)</sup>例えばアクティブラーニングとか、<sup>(328)</sup>環境を通して保育ということがずつと言われて、ここは特に6年間言われているけれども、<sup>(329)</sup>何か実習の面に関しては、割とちよつと古さを残しているんじゃないかというものが、私の実感ではある。もちろん、<sup>(330)</sup>根本的な保育以前のことも大事なんですけども、その上の専門性をどう構築していくかということも、それが人に教えられたり、指示されたりすることだけでは身に付かないだろうと思う。そのときの、いろいろ、例を挙げてくださった中に、アクティブラーニングとか、<sup>(331)</sup>自分が他者との関わりの中で、子どもだったり、保育者だったり、その中で自分を深めながら、見つめながら、そこであるいろいろなことに、この多感な18、19、20、21のときに気付く、そこで何か出合い直しというところ、ですけれども、保育では子どもをこんふうにイメージしていたんだけれども、もつと面白いんだ、もつと深いんだとか、そこで発見してくれるといいなと思う。その発見のきっかけが実習だったり、直に子どもと関わったり、保育者と非常に深い話をしてきたという学生がたまにいますが、そういうことになつてくる可能性というものも持っているんじゃないかと思う。そういう意味でこの実習の可能性と、もつと変わるのではないかなということころを、皆様方の話から、非常に感じている。いろいろ示唆に富むお話をたなと思つている。

(効果的な実習とは?)

<sup>(332)</sup>例えば諸外国なんかでは、カリキュラムを書くことができる保育者とか、実習指導の資格のある保育者とか、割と保育者集団の中で、階層というか、専門性の序列がある。私は<sup>(333)</sup>日本の保育園というのは、非常に平等で、温かくて、保育園だけじゃなくて、幼稚園もそうですけど、そういう意味では、「あなたはこれではできない」とか、そういうふうにあまりなっていない。おもうような意味であると思う。しかしそれはやっぱり、その雰囲気、<sup>(334)</sup>温かさは大事なんだけど、実習指導ができる専門性とか、カリキュラムをきちんと描ける専門性とか、そういう専門性をつけていくための研修も一方では必要である。先ほど実習に関する研修というのが出てきて、素晴らしいなと思う。そこは実際の実務、業務の内容を、きちんと整理して、全員が共

園同士もそのような話ができていない。対話が成立していないことによるズレが、二層構造、三層構造で存在していることを再確認した。

このことが実習の多岐な側面に渡って生じている。たとえば、<sup>(340)</sup>記録についたり、事前指導でどのような指導をしているのかというところ、養成校ではさきうち決めて、現場にあわせて柔軟に思つており、実習園では「どこまで指導してもらっているのか」と疑問を持たれているというふうな感じがある。<sup>(341)</sup>指導実習についてもそのような状況がある。また、園は<sup>(345)</sup>実習生がどうしたいかを伝えてほしいと思ひ、養成校ではそこまで具体的に踏み込めない。それは実習園によって違うからというジレンマを抱えている。実習生の位置づけも色々な学生がいるから、実習園にご迷惑をかけるないようにという側面もありつつ、だけれども<sup>(360)</sup>実習園からはチームの一員としてというありがたいお言葉がある。保護者支援も幅がある。<sup>(336)</sup>なんとという言いかわからないほどの対話の不足と<sup>(337)</sup>認識のズレがあるというふうに思う。

実習指導について時間軸でみていくと、<sup>(344)</sup>事前指導でどのようなことをしているのかというところを<sup>(346)</sup>養成校と実習園で共有する機会としてオリエンテーション、<sup>(346)</sup>訪問指導というものが<sup>(347)</sup>その工夫で何らかのつながりができるのではないかと思う。事前指導についてはこのように互いに了解しあえる機会をもっている。しかし、<sup>(348)</sup>実習を終えて評価をした後、どうなっているかということのフィードバックが、今の実習体系の中では課題として残っていることをあらためて感じた。養成校では事後指導というのは次の実習に生かそうというふうな前向きに考えているけれども、実習園の先生方はあればどうなつたのかなと思つているのだから、そのようなフィードバックがもちろん必要であった。たしかに今、それがないと、あらためて思つた。

<sup>(366)</sup>研修への期待についてもそれぞれ語られたが、<sup>(367)</sup>何らかの形で同じ士俵で最低<sup>(368)</sup>これはやるべきこととというこというようなスタンダードを確認し合える場が本場に今必要なことと実感した。

<sup>(342)</sup>保護者支援も残された課題であることが明確になった。<sup>(343)</sup>これは、重要な保育者の役割と言われなかで、保育実習のなかではそれが落ちている、十分に吟味されていないということがある。もつと積極的にやつていかねければならない。

内容として、記録、実習の内容としてとくに指導実習をやるかどうか、<sup>(349)</sup>実習生が保育中どういうチームの一員として位置づけられているのか、実習生が自分の実習として何を語るか、この4つに関して認識のズレがありながら、お互いがちゃんとしたと思つて、知りたいと思つているので、この4つがとても大事であると思う。

最後に、今日、うれしかったことは、学生が発信する場というものを実習先でも養成校でも大事にしていることである。まず、実習園では、オリエンテーションの時に自分が何をしたいのか、夢を語りなさいとおっしゃつてくださつたこと。学生は実習の前に<sup>(362)</sup>自分の言葉で自分の実習をこうしたいと

	<p>有でさるよゆうにするという意味では、<sup>(335)</sup>実習指導もマニュアル化し過ぎるのはよくな<span style="font-weight: bold;">い</span>と思<span style="font-weight: bold;">う</span>が、ある程度押さえられることは共有しな<span style="font-weight: bold;">き</span>やいけ<span style="font-weight: bold;">な</span>い。そこを<span style="font-weight: bold;">確</span>認すること<span style="font-weight: bold;">と</span>結果として、効果という言<span style="font-weight: bold;">い</span>方<span style="font-weight: bold;">が</span>いいか分<span style="font-weight: bold;">か</span>らな<span style="font-weight: bold;">い</span>いです<span style="font-weight: bold;">け</span>れども、そういうこと<span style="font-weight: bold;">が</span>つな<span style="font-weight: bold;">が</span>って<span style="font-weight: bold;">い</span>く、そういう皆<span style="font-weight: bold;">が</span>共有<span style="font-weight: bold;">し</span>て確<span style="font-weight: bold;">認</span>で<span style="font-weight: bold;">さ</span>る実習指導<span style="font-weight: bold;">の</span>あり方<span style="font-weight: bold;">と</span>いうか、具体的な内容<span style="font-weight: bold;">と</span>いうものは必要<span style="font-weight: bold;">だ</span>と思<span style="font-weight: bold;">う</span>。</p>
	<p>いうことを語る<span style="font-weight: bold;">こ</span>と<span style="font-weight: bold;">が</span>保障<span style="font-weight: bold;">さ</span>れ<span style="font-weight: bold;">て</span>いる。実習後<span style="font-weight: bold;">は</span>、<sup>(353)</sup>聞き手<span style="font-weight: bold;">が</span>い<span style="font-weight: bold;">て</span><sup>(354)</sup>学生<span style="font-weight: bold;">が</span>自らの体験<span style="font-weight: bold;">を</span>語る場<span style="font-weight: bold;">と</span>いうのを養成校<span style="font-weight: bold;">が</span>大事<span style="font-weight: bold;">に</span>して<span style="font-weight: bold;">い</span>る。中心<span style="font-weight: bold;">に</span>あるのは学生<span style="font-weight: bold;">で</span>あり、<sup>(352)</sup>実習<span style="font-weight: bold;">の</span>前<span style="font-weight: bold;">に</span>学生<span style="font-weight: bold;">が</span>自<span style="font-weight: bold;">分</span>の言葉<span style="font-weight: bold;">で</span>語る機会<span style="font-weight: bold;">を</span>保障<span style="font-weight: bold;">さ</span>れ、<sup>(355)</sup>終わった後<span style="font-weight: bold;">に</span>き<span style="font-weight: bold;">つ</span>ち<span style="font-weight: bold;">り</span>と語<span style="font-weight: bold;">っ</span>て誰<span style="font-weight: bold;">か</span>に伝<span style="font-weight: bold;">え</span>て<span style="font-weight: bold;">い</span>く機会<span style="font-weight: bold;">を</span>養成校<span style="font-weight: bold;">も</span>大事<span style="font-weight: bold;">に</span>して<span style="font-weight: bold;">い</span>るというこ<span style="font-weight: bold;">と</span>は、す<span style="font-weight: bold;">ご</span>くうれ<span style="font-weight: bold;">し</span>いこ<span style="font-weight: bold;">と</span>だと思<span style="font-weight: bold;">う</span>。</p>

